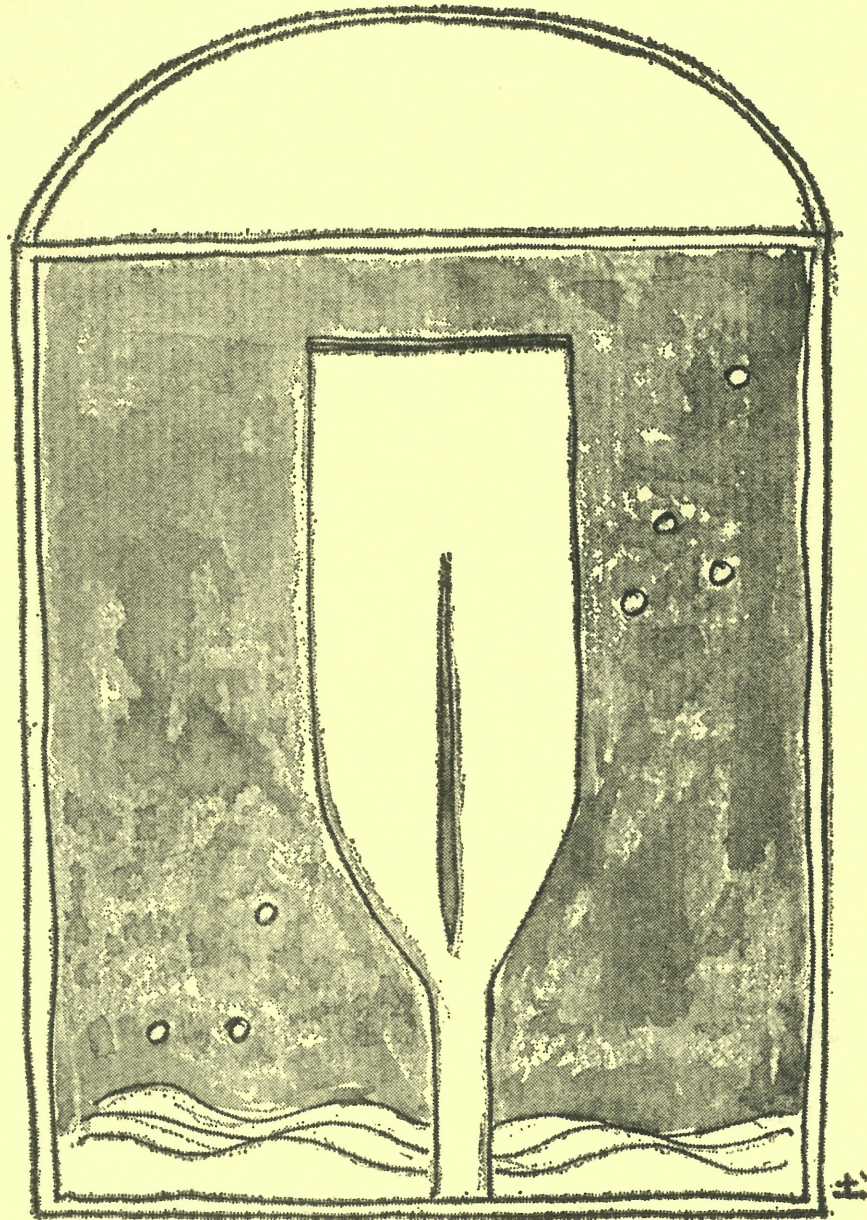




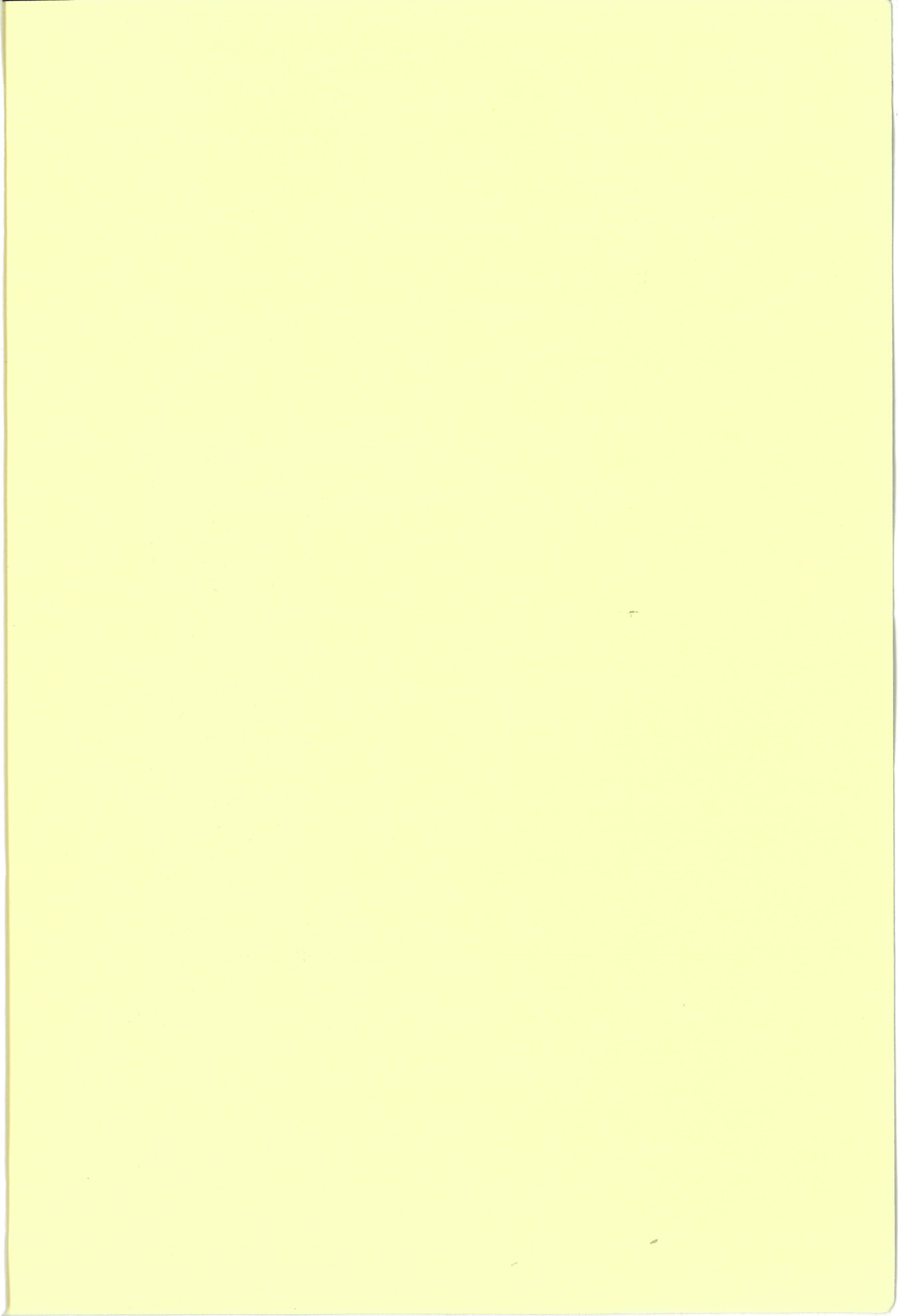
第六号

漕魂



1981

長崎大学医学部漕艇部



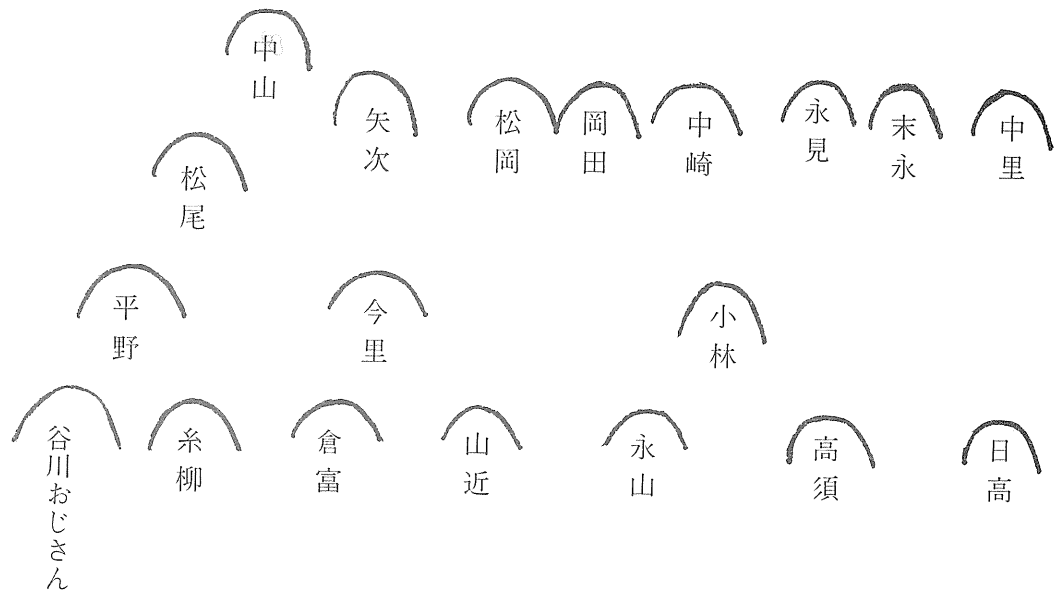
全日本学生選手権に初参加して

……山近史郎……11



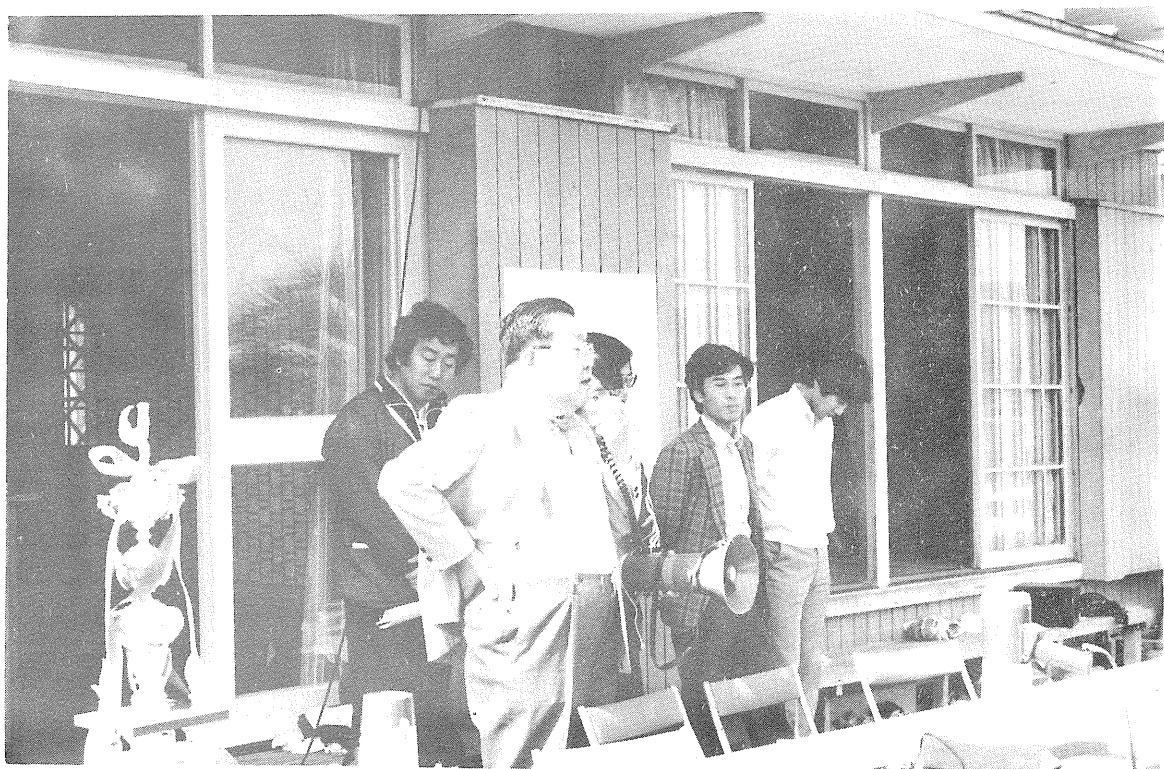
昭和55年7月 夏合宿

昭和55年度の個人的総括と雑感……中里貴澄……3





昭和55年 8 月 全日本学生選手権
於戸田オリンピックコース



昭和55年 4 月 九山大会（長崎主管）
高久部長のあいさつ

目次

巻頭言

ボート部の諸君に……漕艇部長 高久 功……………1

寄稿

所感……………尾崎正若……………2

陸カップの回想……………酒井久義……………3

無題……………小村三代治……………5

歴代主将より

あの頃の一年生……………神田源太……………6

医学部漕艇部の諸君へ……………田中精一……………6

無題……………出口正巳……………7

無題……………前原洋二……………8

跡を濁さず……………難波裕幸……………8

ハングリー精神……………山近史郎……………9

卒業生寸言……………10

全日本学生選手権に初参加して……………山近史郎……………11

昭和55年度行事結果……………12

昭和55年度大会成績……………13

部員雑感

学生時代……………倉富彰秀……………23

目とメガネの出会い……………岡田代吉……………24

いけない子……………中崎隆行……………25

対抗クルーのあり方について……………永見耕一……………25

勝つ……………永山雄二……………26

狂うジング?……………今里雅之……………27

Funniest Stories……………小林誠博……………27

ペーロンを漕いでみたい……………糸柳則昭……………28

Goethes Sprichworter……………日高真……………28

とりあえず……………松岡直樹……………30

子々川のキス……………矢次登……………30

昭和55年度の個人的総括と雑感……………中里貴浩……………31

わすれじのDクルー！……………	中山大介……………	32
ハッピーな気分……………	山田稔……………	32
昭和55年度会計報告……………		33
昭和56年度年間計画……………		34
長崎大学医学部漕艇部OB会会則……………		35
長崎大学医学部漕艇部OB会役員名簿……………		36
長崎大学医学部漕艇部OB会賛助会員名簿……………		37
長崎大学医学部漕艇部OB会一般会員名簿……………		39
長崎大学医学部漕艇部現役部員名簿……………		44
編集後記……………		46

巻頭言

ボート部の諸君に

漕艇部長 高 久 功

私自身は、運動部の生活を高く評価している。極端に云えば運動部の生活なくして学生生活なしと考えている。

旧制高校、大学を通してこれ程苦しかった生活は無かったと今でも思っている。その生活を耐えぬいてきた自信が、その後の研究生活でも挫折できない気力と体力をくれたと思っている。私の旧友、東北大の石田教授はこれをやせ我慢と呼んでいるが、この言葉の陰には誇りがあり、いうならば松島でボートをこげる、雪の降りつもる湾上でただ夢中になって艇が漕げるといった情熱に感激していたという簡単なことであったようだ。自分が楽しんでいた事を率直に誇りとしていたという印象である。

長大医学部のクルーの諸君も、どうか夢中になってボートを漕いでほしいと思う。最近のレース成績などを聞くと、まだ一番大事な基礎的な技術、体力に弱い所があるように思えてしかたがない。

昨年東北大クルーに学び、キャッチをおぼえたとのことだが、何時もよいキャッチが出来るのは大変なことで、レース時を上まわる条件での練習が出来なければ無意味な事である。いろいろお互いに考えながら一日一日よいクルーになってほしいものである。

終わりになったが、諸先輩の御助力、部員各位の健闘に心から御礼を申し述べたい。

(「やせ我慢」に関する頃は、東北大石田漕艇部長の書かれた文から引用した所が多いことを附記する)

寄稿

所感

第二薬理教授 尾崎正若

漕艇部の日高君が何か書いてくれと云うことで、よんどころなく愚筆をとった次第、若し宜しかったら暫らく我慢して読んで下されば幸いである。医学部の部員諸君が日頃子々川で、空気も良く綺麗な大村湾にシュルフォア、ナックルフォアを浮かべて練習にいそしみ汗を流し歯をくいしばって、オールを握っている様子は何ものにもかえ難く、若人らしく頼もしい風景である。特に本学の諸君は恵まれた環境にある。只、惜しむらくは艇庫が狭く、或大学では部員が部室から通学出来る位立派な設備のある国立大学もあるそうで、この点残念に思っていることであろう。

何れにしても、部のOBの丹羽正美君をはじめ田中精一君も、基礎に臨床にそれぞれ活躍中で、学生時代にボートで頑張った諸君は又卒業後も頑張りがきく様に思われてならない。勿論これはボートに限ったことではない。スポーツ礼賛である。

前任地名古屋市立大学に居た頃から感じていたことであるが、日頃スポーツにも親しまない学生君は、例外も多かるうが、一般に余り感激もしないし、只何となく落第しない程度に勉強して卒業していく姿が多い様な印象である。実習をやっているも慢然とクラスメイトがやっているのを眺めている。自分もその当事者であって、手を汚して実習をやるべき一員であるとの認識に乏しい。つまりやる気が弱く積極的でない。

少なくとも応用自然科学を学んでいる医学生があり、生体にまつわる色々の反応が自然の哲理に従い、眼前にありありと、或いは、

よし見えてなくとも細胞レベルで一定の化学反応を起こして見せてくれている訳である。つまりは将来臨床に進んで疾病の病態生理を理解する上にも基礎となる貴重な現象を具現している筈である。実習で取り扱う程度の実験材料や内容では何も余り取り立てて真新しい事実もなく、便利な日本語の参考書に既に印刷されているに過ぎないかも知れない。併しその現象の影には種々と何故その様な反応を示すのか、どうしてかかる薬物の作用が現われるか作用のメカニズムが潜んでいる。しかもその一つ一つはとんでもない不可解な態度を示しているすべもなく、解きほぐして行くと、或理解点にアプローチするであろう。

或日実習中に「君！君自身を取り組んでいる実習は何であって、どうしてその様な材料を用い、またどうしてその様な作用となつて現われているものか、もっと良く考えて実習の成果を上げる様にし給え。」と云った事がある。その時ある答が返って来た。「先生、私は解らなくなつて覚えることは出来ずから、御心配には及びません。」この時私は少なからず戸惑いを感じた。一体何を云っているのであろう？ 一体解からなくとも覚えるとは如何なるだろう。ああ、「門前の小僧習わぬ経を読む」式に解からなくとも暗記出来るると云う訳だろうか。いやいやこんなことで医学を学ぼうとしている積もりか。とんでもない事である。高校時代からの受験勉強の悪弊から未だ脱却出来ずにいるのか。成程、現在情報は過剰である。どうしてそうなるものかなど、その理屈を一つ一つを考え、つき会っている暇など無い。暗記していった方が手取り早いとでも云うのだから。併し、真に一つの事象に合点が行くと相等量の内容をくそ暗記する必要がなくなる場合もあるし、一つの事を深く探究する事に

よって自然その周囲もこれにつられて掘り下げられてゆく場合もある。無味乾燥な過去の事実を簡単に記憶に止めるのとは根本的に異なる生命の神秘を宿し、無限の真理を含んだ自然科学の一部を自らは学んでいることにもっともっと目ざめ、自覚してもらいたい。そして車にひかれて骨折などしたイヌやネコなどを見るにつけても可愛そうだと心の底から思ってくれる人間になってもらいたい。実験室などにもっと遠慮なくやって来て、いたずらをしたらと思う。色々と珍らし面白い現象を、そして事実を発見することが出来ると思う。学内外の先生方はそう伝う諸君を歓迎することと思う。

徒らに教科書、講義、ノート、コピー、くそ暗記、一夜漬試験と法文系の学生と何ら変わることのない文科医学校にならない様諸君と共に心掛けてゆこうではありませんか！

Q 陸カツパの回想

長崎県立スポーツ研究指導センター 酒 井 久 義

不景気な世にはギャンブルが栄えるというが、大村ボートは相も変わらず繁盛のようである。大村といえばボートの名がでるようにギャンブルの町の代名詞的な扱かいを受けているが、エンジン付のボートが日本で最初のレース場なら、腕力にものを言わせて漕ぎまくるボートもまた県下の草分けの地でもある。大正の時代より漕ぎ伝えられてきた、旧制大村中学のフィックス艇がそれである。昭和の二四、五年頃まで「大中ボートレース」としてその名を留め、その大会たるや在校、同窓生は勿論のこと市民総ぐるみのボートレースとして幾度の歴史と語り草を残している。進学の波に押されて学校行事が部活動となり、フィックスがナックルに代わる時代の流

れはあるが、漕艇こそ大村の名物であった。私も師範学校に籍をおいていた頃、見物に出かけたことがあった。伝統のレースだけあって、そこに集まる人達の情熱と興奮が未知な者にも伝わる程のものであったことを憶えている。フィックス艇は昨今のレガッタでは見ることができないが、日本における競争艇の代表的な物で、長崎が国体を開いた昭和四十四年の前年度まで国体、インターハイ、実業団等の正式種目として巾を効かせていたものである。ねじりハチマキでオールを手にして天を迎がんばかりの漕法スタイルは、男の心意気をダイナミックに現わしたもので壮観でもあった。滑席艇しか知らない諸君は固定席のフィックスも一度はみておくのも後学のためではなからうか。今でも大村高校の艇庫に琴湖、多良、放虎の三艇が大事に保存されている。

はからずも寄稿の依頼を受けたので、オワズマンのために、私の知り得る範囲内で漕法論でも…と考えたが、このことについては現場における指導がより適切ではなからうかと考えるので、以下私と海との出会いなどを中心に話をすすめてみたい。

私は雲仙岳の麓でとれた山猿の類なので、海やボートには無縁なまま青春時代を送り教師になった。スポーツといえばラグビーを少々やる程度でこれといった取り柄のない人間であるが、海との出会いは「海の近くにある高校に勤めている」ことが決め手とされ、海と仲良しに仕立られたというのが本音である。まず東京オリンピックから始まった。地元開催国は全種目出場が原則とされることから、日漕協もいろいろと困ったようだが、荷物の一つにカヌー競技があった。日漕協の考えたことに長崎と熊本で行なわれているペーロンはその漕法からみてカヌーに似ている。カヌーの選手はこの両県で

養成してもらおうということであった。県にカヌー協会が作られ、選手養成が始まった。長崎市近郊のペーロンの選手を第一とし、第二に海辺の高校選手育成が考えられた。長崎水産、大村園芸、上五島の各校が候補校となり特訓を受けることとなった。水のぬるみもない春休みに野母崎の堤でコーチを生徒とともに受けた。堤に落ちる度に身体に針千本をさされる冷たい思いを五衛門風呂で温めたことを想い出す。こうして養成された選手はその年の最終選考レースまでは残ったが正選手の座は熊本勢にとられてしまった。但しこの強化は後に花を咲かすこととなる。当時長崎水産の現役であった山口徹正がオリンピックをはじめ世界選手権大会などに出場することとなった。この東京オリンピックが終わった時点で長崎国体誘致が決定された。これが二回目の海との出会いになるのである。ここでも「海に近い」が強化指定校の第一条件とされた。学校は大村、大村園芸、琴海、長崎南商、長崎水産と決められた。開催県フルエントリイが長崎県にボートを復活させることとなるが、時代は固定座席艇から滑席艇とシエルに移っていた。協会なし、経験者ゼロ、コーチ不在、オール素人のボートが漕ぎだされることとなった。全く「にわか」である。四十年の夏にデルタ造船からナックル一艇が届けられた。初めてみるピカピカのボートであった。漕法はもちろん扱かい方すら知らないボートなので、しばらくは学校の廊下に陳列していたくらいである。五校もあるので誰かがやるだろうとや、気楽に考えていたら秋になると総合優勝、天皇杯などという言葉が会議の都度出たり、新聞が国体成功にラッパを吹き鳴らすこととなり、やらずばなるめえ、という気にさせられた。翌四十一年には九州大会にも出場した。歯のたたぬレースであったが、レガッタらしき物

を見た。この九州大会から県のコーチ陣の勉強が始まった。その中心人物が吉田恒雄氏である。別名鬼コーチと呼ばれていた。四十一年のインターハイこそ実力不足で出場しなかったが、秋の国体以降、関西朝日、中部日本、全日本実業団等々の大会を含めて出れるものには出る、見る、学ぶ、工夫する、考える。出ると長崎国体まで残された年間の苦斗と栄智は、人生に又とないチャンスを生かし得た経験の最大のものであったかもしれない。牽引車の山口理事長、人生これボートの吉田コーチ、各校の監督達も多分そう思っているかもしれない。特に私が担当した大村園芸は年中無休をスローガンにした猛烈学校でその意気込みは他校を圧するものがあつたようである。平常日1万5千、終日4万mを漕ぐことがノルマであつた。しかもその漕法たるや、これといって決まったものはなく、大会に出る度、帰る度に変わるといった状態で、漕手は常にモルモットみたいな物であつた。これは漕ぐことのできない監督をもつた宿命的なものである。実のところ私はカヌーも漕げぬし、ボートも又漕いだことのない、丘の上のクッパ監督なのである。名選手必ずしも名監督に非ずのぼせる訳ではないがメクラ蛇におじずの例えを地で行つたことがいい結果を生み出させるものとなつていたのかもしれない。ちなみに四十一年の九州大会以降の県内の高校生の成績をふり返ってみると、長崎国体の優勝、インターハイ優勝、関西朝日での優勝をはじめとして、九州大会では優勝11回、2位10回、3位4回、インターハイの成績として2位1回、3位4回、また国体では2位3回、3位5回等の数字が残っている。この他にもモントリオールとオーストリアの世界選手権に出場したことも特筆すべきことと挙げられよう。オーストリアの大会には選手団を引率して参加し、東

北大のエイトと共に日本の名を背にして戦ったことがあった。これもボートのとりもつ縁であったかもしれない。

回顧録はこのくらいにして足もとを少しみてみることにしよう。

全国の強豪に互して戦った高校勢も琴海艇友会も今や昔語りになろうとしている。先輩諸氏も淋しい限りだと思っているにちがいない。しかし救いもある。漕ぎは粘りとする佐世保工専、漕ぎは観る、学ぶ、考える、そして試すとする理詰め医学部クルーがそれである。特に大村での秋の大会における力漕は昔を想い出させるのに充分であった。今後とも長崎県のモデルクルーとして一層の精進をお願いしたい。私も今はただ年に二回のレースに審判として顔を出す程度の職場にいるが、何時の日か又オワズマンと海で生活をしたものだと思っている。先づは西医体での優勝をめざす諸君の健闘と、巢立ち行かれる琴湖子々川のオワズマン諸氏の今後のますますの発展と健康を衷心よりお祈りします。またいつか大村の海にボートを漕ぎに来て下さい。待っています。

無 題

55年卒 小 村 三代治

医学部卒業後、はや一年近くなるうとしています。神戸大学小児科に入局して、現在研修一年目です。そして今年の一月より、兵庫県北部にある豊岡市の公立豊岡病院に勤務しています。

一月中旬には積雪一メートルと南九州育ちの私にとって、驚きの一つでした。この地方は牛肉や松葉ガニのうまいところです。城崎

温泉へは車で10分、神鍋スキー場へは40分といった、風光明媚な人口4万人程度の山陰の町です。

豊岡病院は豊岡市と周囲の9つの町が資金をだしてつくられたため、公立豊岡病院組合立となっています。

このため、二次三次的、最終病院的性格をもち、また夜間救急センターも兼ね添えています。現在小児科医は、病院長も含め6名です。

私の日課は次のようになっています。
12:00 新生児センターor小児科外来、
13:00 小児病棟・新生児センター・乳児検診、といった具合です。

今のところ、豊岡病院にて2年程臨床実地を学んでみたいと考えています。

学生生活に終止付を打ち、社会人として、また、医師としての道を歩み始め、何かと勝手の違う所も多く、自分も今まで随分子供だったなあと思うことしきりです。

最後に社会人一年生としての体験より後輩の皆さんに苦言を呈せうと思えます。

チームの和は絶対に必要なことですが、自分というものは見失わないこと、また根気と忍耐も必要です。そして最も大切な事は、現状に満足せず、常により高いところに目標をおいて自分を振り立たせることではないかと考えます。受け身の考えでは甘いのです。積極的に自分から飛び込んで行かなくては道は開けません。後輩諸君、大いに頑張ってください。

歴代主将より

あの頃の一年生

49年度(4代) 神 田 源 太

早いもので、私がキャプテンをやっていた時の一年生もすべて、現役でなくなり医者としての道を歩み始めている。あの頃の彼等のことについて、少し書いてみようと思います。井上健一郎君、長崎北出身、水泳で鍛えただけあってすばらしい体力の持ち主で、入った時から、3番予定だった。一年の時、酒に酔って、浜口のカンパンをこわしたチャメツ気もあった。小倉猛君、彼は若乃花と同じ東北の青森出身で、東北出身にはめずらしく情熱的な男だった。小村三代治君、宮崎の都城西出身、典型的な「イモガラボクト」タイプの実直そのものの好男子だった。成松元治君、「佐賀もんの通った後」は、草もはえない。の言葉通り、入った時からすばらしい根性の持ち主で、我々も、たまに彼には感服させられた。前原洋二君、鹿児島大口高校卒、柔道と演劇をやっていただけに、ユニークな存在で、入った時から「役者やのう」って感じの薩摩隼人であった。水谷明正君、佐世保北出身、体操で鍛えたすばらしい体も、もう少し身長があったらと思う、甘いマスク?のテレ屋なプレイボーイだった。村山晋君、三重の伊勢高校出身、気はやさしく力もち、まるで金太郎さんみたいな感があった。

今思えば、以上「七人の侍」達が団結し、6年の間にヨチヨチ歩きの長大医学部漕艇部を、今では立派なクラブへと発展させてくれたのではないかと思います。少なくとも、彼等は「ほんとうにボートを漕いでいてよかった。」と思う気持ちで卒業していったと信じています。現役の諸君も、彼等に負けないくらい「ボートを漕いでいて

よかった。」と思う気持ちで卒業してほしいし、その為に努力して、今までの先輩達にできなかった君達自身の新しい伝統を築き上げてほしいと思います。

医学部漕艇部の諸君へ

50年度(5代) 田 中 精 一

諸君の活躍ぶり、山近君より遂次報告を受け、ひじょうに嬉しく、たのしく思っています。この積み重ねこそが十年後、二十年後の将来の伝統を形作るものであると信じています。

私の入部した頃は、県漕艇協会の御好意による借艇にて練習し、内容的にもまだまだ同好会の域を出るものではありませんでした。その後、木谷先生よりのオール一組の寄贈に始まり、宮城先生を中心として新艇購入委員会が発足し、多数の先生方の御好意によりまして、やっと雲仙・多良の2艇を購入し、本格的に部としての活動を始めた頃でもありました。

学問の面でも、当時熱研内科を退官され現在五島町で開業されている村上先生を、薬理の丹羽先生、I外科の川口、脳外科の堤君、それに私など漕艇部部長が主になって囲み、真の臨床医学を学ぼうと毎週金曜日に集まり、夜の更けるのも忘れて、勉強し、そして飲み語ったものでした。これが、当時我々が「梁山泊」と称した村上ゼミナールの始まりでした。私の如き落ちこぼれの者が少しでも学問に興味を持ち始めたのは村上ゼミの御蔭でありました。現在まで約七年続いているこのゼミの同窓生も多数で今年一同集まる由、今

から楽しみです。

当時の漕艇部新入部員にもおもしろい男達がごっそり入部してきました。気がやさしく諸事に走り回ってくれた井上、酒が強く合宿ではいつもふんどし一つでいた前原、歌は上手だが女に弱い村山、まじめで気は良いがただ酒に弱い成松、自分の顔が厭になる程のハンサム、水谷、酒の席で必ず私に追いかけて回された小村、自称女にもてる男、実はそうでもない小倉、入部した時腹筋運動が一回もできなかった難波、サイクリングが好きで唯一可愛い恋人のいた谷川、コックス席にいた私の前、激しい叱咤にて泣き出した山近、足は短いが立派に3番を漕いでいた末永、等々の人達の入部により部活動も本格的になり、今日の漕艇部を築いてくれました。感謝しています。これらの人達と毎日ワイワイガヤガヤと、私の漕艇部の生活でありました。

部誌「漕魂」も最初は手書きの謄写版で始めたのが、今では活字で立派になりました。今後も是非続けていって下さい。長崎を遠く離れている私に部誌は大きな楽しみです。

医学部漕艇部もますます活動の枠を広げ、戸田の学生選手権、琵琶湖の関西レガッタ等意欲的に参加して下さい。楽しみにしています。

思いつくままに私の漕艇部時代を書き連らねてみました。

無 題

51年度（6代）出 口 正 巳

長崎大学医学部漕艇部が誕生してはや9年になろうとしています。が発足当初の頃から私が主将をしておりました頃、そして昨今の近況と、日進月歩の着実な進歩を示しているように思われます。オールを握り、シートをはずしながら汗をかく事が嬉しかった頃、他大学チームや実業団チームの漕法を見て、あれこれ仲間でも議論し技術をまねて、自分達なりにこれを消化し得た時の喜び、これらの楽しかった事がまず脳裏に行きかう様に思います。

私の現役時代には優勝というものには到達し得ず、「おしかった」という言葉をくり返しておりました。当時から私はこの「おしかった」という言葉をうしろめたい気持ちで吐いていました。というのは、この言葉に気持ちの逃げ道をさぐっていた様に思うのです。実際に、あれがなければ、あそこがこうだったら、と言うのに何ら意味はない様に思うのです。2位になる事と優勝する事の間にはそれ程に大きなへだたりがあると思います。昨秋までこの事の繰り返しでありましたが、やっと「宮城杯」の栄冠をかちとってくれた事が、私のみならず、諸先輩方にとっても他にかえられない喜びであったと思います。病院に勤務し始めてからは、ほとんど練習にも顔を出さずにおりましたところ、今年の対抗クルーは優勝をねらえると思ってきました。今迄に何度かこの言葉は聞いておりましたので、半信半疑でありましたが、この記念すべき宮城杯の優勝で医学部漕艇部の新しい歴史が始まったと思います。このすばらしい実績を基盤として一層の練習をして、更に九山、九州朝日レガッタ、西医体の栄冠をめざして頑張ってもらいたいと思います。

無題

53年度（8代） 前原洋二

私がキャプテンの時はみじめな試合結果しか残っていない。又私自身がfatly liverとのdiagで運動制限を受けていた。もちろんalcoholは一滴もだめ、夏合宿の時などは、みんながビールを飲むのをうらやましく思い、コーラを飲んでいた。もし酒に手をかけようとする、主治医の井上先生の息子の健一郎からしかられたものでした。

いろいろあったのですが、西医体のクルー編成が夏合宿の間に何回も変わってまとまりがなく、その当然の結果として西医体で惨敗私のところが我が漕艇部において最低の年であった。しかしボート以外の事、合ハイ、ダンスパーティでは最高の年ではなかったかと思えます。

だけど現在のキャプテンの永山をはじめとして、学3を中心としたボート部の実力は全運動部の中でも1、2位を競うものだと私は満足しているし、又彼らをここまでしたのは俺の力も少しはあるのではないかと、過剰に自己満足している。

卒業しても合ハイには絶対呼ぶこと。

跡を濁さず

54年度（9代） 難波裕幸

今年で長い学生生活にも終止符をうつことになる。ありきたりの言葉だが長いようで短い6年間であった。僕にとってこの6年間ににおけるボート部の存在は、きわめて大きな意義があったと思う。学

生生活の7割ちかくのウエイトをしめていたといってもいいのではないかという気がする。それだけボートとともに泣きそして笑ってきた。

あまり過去というものをほりかえすのは好まぬ僕だけれども、ボート部に関しては数多くの思いが心に去来する。その中であえて、キャプテン時代の事をというならば、僕のキャプテン時代にやった実績は、新艇購入、艇庫改造、全学及び学生係との規約づくり、第1回OB会、能大定期戦発足、青木先生の御指導、東北大合宿参加の足がかり等、事務面では著しいものがあつたと認めてもらえらると思ふ。これもOB諸氏の協力にもとづくものであり、多大な援助のたまものだと思う。とくに適切なアドバイスをしてくださった井上さんの力は大きかった。しかし成績の方はというと惨憺たるものであつた。今、考えてみるとムチャをしすぎたというか、いつも自分がイラだつていた。下級生というものは、先輩を手本にするものだ。それなのに……。後悔先に立たずか。今でも一諸にやってきた同輩諸氏や、山近ら下級生には口では言えないが感謝している。

6年間のボート部生活で得てきた経験から僕にとって欠けており後輩たちには是非もってほしいものは、上級生は下級生の面倒を見なさい、そして下級生は上級生を頼りにしなさいということだ。ただし金のめんだけで頼りなさんな。

また、今のボート部は大会で優勝できるようなクラブになった。本当に素晴らしいことだと思う。これも、海水が冷たくて足が凍ってつく春合宿、眠むくてたまらぬ通い合宿、たとえようがなく暑くてたまらぬ夏合宿、そして暗くなりコックスの声だけがこだまする平日の子々川での練習のたまものだと思う。練習はつらかった、けどサクラは輝くほどきれいだったし、風はあくまでもさわやかであ

り、レモン水はこの世でこんなにうまいものはないと思うほどだった。けだるさの中に、いいしれぬ充足感と爽快さがあった。

そして、今、僕は長かった6年の日々に数々の思い出を残しつつ、暖かくはぐくんでくれたボート部から離れます。

ハングリー精神

55年度(10代)学Ⅳ 山 近 史 郎

9月に主将になって、10月に第一回態大対抗戦(井上杯)を子々川で、翌年4月に九山を子々川で主催し結構忙しかったが、先輩、先生方の御協力もあり、無事に開催することができた。11月には青木勇先生を子々川にお招きし、いろいろとコーチをして頂いた。12月の冬休みには青木先生の御紹介により、難波さん、永山、今里の三人が浜松の東北大合宿に参加し、漕法、練習法などを吸収することができ、自分達の漕ぎが確立しつつある。練習としては、陸トレで週5日練習、4月合宿、朝練習などを始めて、九山オープン優勝県漕での初の完全優勝を遂げることが出来た。西医体では全クルー準決進出、決勝にあと一步だったが、惜敗した。8月末には全日本大学選手権に出場し、いい刺激になったと思う。いつも思うことは、負傷者が必要でてくることである。これは各人の心がけが大事であり、常日頃から運動をしていなければだめである。試験などがあるので運動を怠りがちだが、合宿前などは特に体を動かしていなければならぬ。特に夏合宿前の試験期間は、これから更に検討の余地があるだろう。去年の後半は熊大対抗戦完全優勝、宮城杯優勝と、

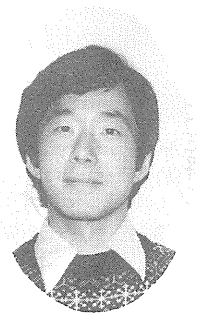
クラブの調子がよいので、九山、九州朝日、県漕、西医体優勝へと、あくまで和を大切にしながら突き進んでいきましょう。

卒業生寸言



谷川 宗 生先輩（長崎市出身）

一人一人がボートのスーパースターであり、その互いの心がうちとけあっている、そしてだれもがボートに乗る事を楽しく思う。……これが、ぼくの理想です。



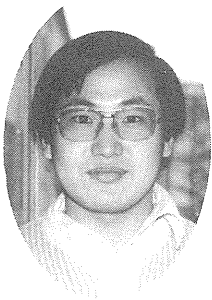
難波 裕 幸先輩（神奈川県箱根出身）

ボート部にとってよりベターな道を、協力しあい討論しあって選んでほしい。そしてその道を、部員一人一人がベストをつくして歩んでほしい。



前原 洋 二先輩（鹿児島県薩摩郡出身）

長崎に来て7年間の学生生活短くもあり長くもあった。教養の頃ボートの練習がいやでさぼりかけた事が何度もあった。いやいや練習したが、その後の酒は最高だと感心させられたものだった。これから卒業して他人から何かスポーツをやっていましたかと聞かれたら即座にボートをやっていたと答える。自信をもってボート部を愛す。



村山 晋 先輩（三重県伊勢市出身）

去年は厳しい練習の成果が現われ始めた年だったと思います。今年には更に大きく前進してください。

全日本学生選手権に初参加して

学Ⅳ 山 近 史 郎

かねてから、丹羽先輩を初めとする諸先輩から参加を勧められていました埼玉県戸田オリンピックコースでの全日本大学選手権に、昭和55年8月22日、長崎大学医学部クルーとして出場致しました。5日間東京の御自分のマンションに宿泊させて頂いた井上先生、食事御馳走して下さった朝戸先生、応援に来て下さった小倉先輩、更に朝早く鎌倉より観戦に来て頂いた青木勇先生、そして御援助頂いた諸先生方に、先づはこの紙面を御借り致しまして、遅ればせながら、厚く御礼申し上げます、と同時に、私の不注意で予選に参加できなかったことを、深く御詫び申し上げます。

敗復より出場して初の二千mレースということもあってか、7分59秒70、1位の早大理工に20秒差で最下位に甘んじ、準決勝に進出することはできませんでした。

他の出場したクルーのメンバーはもちろんですが、私にとって後輩の人達に伝える義務がありますので、この大会に出場して感じたこと、得たものを、この場で述べてみたいと思います。

そもそも、この戸田オリンピックコースは、東京オリンピックの為に、1964⁴年に作られており、現在ではそのコースの周辺に、全国の社会人チームや大学の合宿所が数10ヶ所も建っていて、いわばボートのメッカとも言うべき所です。もちろん試合の前は、各チームが合宿しており、それぞれの練習時間が重なった時は、コース内はエイト、フォア、シングルスカル、ダブルスカルなどあふれんばかりでクルーのかけ声なども重なり、恐しく活気がみなぎっています。

私達が艇を借りた東大の合宿所などは鉄筋できており、艇庫も

広く、更に食事を作るおばさんもおられ、それはすばらしい設備でした。東北大の場合はかなり以前に建てられたみたいで、伝統がしみついてる様子であり、食事も自分達で作っているようでした。

艇を借りたり、艇庫を使わせてもらったりして、かなり東大のマネージャーと話す機会を得ましたが（彼は私と同じ長崎市の滑石にかつて住んでいたそう）、このマネージャーがなかなかしっかりした方で、暇さえあれば、いつも食堂の横の部屋でクラブの経理や艇、部品に関したこと、練習や部員に関したことなど、様々な事柄を日記のように記録していました。時々部員が彼に相談に来ているようでしたが、クラブに関する諸事は彼が切り回しているのです。私も2年前にマネージャーを経験しましたが、その徹底した面は、ひたすら感心させられ、自分が恥かしくなるばかりでした。練習の合間や休み時間には、必ず艇庫で艇の整備に余念がなかったのです。しつこい程艇を磨き上げている姿は、たとえ練習でも完璧さを失わないという気持ちがかがえました。練習中は大声を張り上げ、陸に上がると一人黙々と常に整備を怠らない、非常に対照的な姿は、まさにコックスの美しさでしょう。

漕手も練習前はもちろん、練習直後の整備を怠っていませんでした。

コックスや漕手のトレーニングパンツの尻のポケットには、「絶対優勝！」とか「勝利！」などと各人各様に決意の言葉をマジックでしてありました。漕ぎ終って陸に上がると、各クルーは陣を組んで、練習で気づいたことなど、その都度話し合っていました。練習直後は誰もが疲れているでしょうが、たとえ5分でもお互いに反省し合うことは、非常に大事なことでしょう。

各大学とも様々な漕法があるようで、筑波大学の筑波漕法、東大の漕法、そして東北大の漕法など。特に筑波漕法は、周知の通り特徴的だが、それぞれ根本的には同じところが多く、目ざすところは同じ様な気がします。

大事な事は、我々は我々で、全員が漕ぎを統一させ、ユニフォーミティを保ち、理想に一步でも近づけることを心がけることでしょう。

もっと色々なチームの合宿風景や練習などをみたり、話を聞いてみたかったです。あまり果せず残念です。戸田には共同合宿所があり、全国から希望するチームを募集しているので、我々も西医体が終って合宿してもいいのではないのでしょうか。出場チームも多いし、試合前はすべてが合宿して、試合進行もしっかりしているの、戸田にすればすばらしい刺激になると思います。我はと思わん者、やる気のある者は、教養生でもどんどん出場して欲しいし、一度は戸田に試合や合宿を見学にいつて欲しいと思います。

最後に、試合の帰りにおじゃましました、大阪の松本先生、神戸の田中先生、福山の光藤先生、どうもありがとうございました。

昭和55年度行事結果

3月19日	55年シーズン開始
3月22日	O B会総会（於同窓会館）
3月23日～4月5日	春合宿
4月20日～4月28日	強化合宿
4月29日	九州山口医科学生体育大会（於子々川 主管・長崎大学）
5月10日	新歓コンパ
5月15日～5月23日	強化合宿
5月24,25日	九州朝日レガッタ（於北九州市河地貯水池）
6月1日	県漕（於形上湾）
7月17日～7月29日	夏合宿
8月1,2日	西日本医科学生総合体育大会（於鳥取県米子市錦海漕艇コース 主管・鳥取大学）
8月14日～8月18日	全日本合宿（1クルーのみ）
8月22,23,24日	全日本学生選手権（於戸田オリンピックコース）
10月11日	O B報告会
10月16日～10月25日	強化合宿
10月26日	熊大対抗戦（於熊本江津湖）
11月2日	宮城杯（大村）

昭和55年度大会成績

九州山口医科学生体育大会

試合日……55年4月29日

場所……長崎県時津町子々川・一千mコース

種目……対抗・オープン共にナックルフォア

クルー

Aクルー (対抗)	Bクルー (オープン)	Cクルー (オープン)
C倉富 (学3)	C永見 (学2)	C末永 (学2)
S山近 (学3)	S中里 (教2)	S糸柳 (教2)
3中崎 (学2)	3日高 (教2)	3矢次 (教2)
2永山 (学2)	2小林 (学1)	2平野 (学1)
B今里 (学1)	B岡田 (学2)	B松尾 (学2)

成績

Aクルー……3位 (5クルー出場)

Bクルー……オープン優勝 (6クルー出場)

Cクルー……オープン4位

順位	タイム
1	4'12"4
2	4'19"0
3	4'21"4
4	4'34"0
5	4'45"7
6	4'03"0
7	4'07"3
8	4'06"4
9	4'13"8
10	4'30"6
11	4'18"4
12	4'19"5
13	4'42"3
14	4'19"2
15	4'25"1
16	5'17"4
17	4'36"4
18	4'38"6

(対抗予選)

山口大 4'12"4
福岡大 4'36"2
長崎大 4'19"0

(対抗敗復)

長崎大 4'21"4
福岡大 4'34"0
佐賀医大 4'45"7

(対抗決勝)

山口大 4'03"0
長崎大 4'07"3
熊本大 4'06"4

(オープン予選)

長崎大B 4'13"8
熊本大C 4'30"6

熊本大B 4'18"4
長崎大C 4'19"5

(オープン決勝)

福岡大 4'42"3
長崎大B 4'19"2
熊本大B 4'25"1

(オープン4位決定戦)

佐賀医大 5'17"4
長崎大C 4'36"4
熊本大C 4'38"6

試合経過

対抗予選……スタート100mで山大が1/2艇身リード。ついで長大、福大の順で、そのまま500m通過。その後山大がじりじりとでた。750mでラストスパートをかけたが、山大もののびてそのままゴールイン。コンスタントの足げりの差がそのままたようなレースであった。

対抗敗復……スタートで半艇身リード。そのまま500m通過。1/2艇身遅れで福大、さらに1/2艇身遅れて佐医大。その後のコンスタントで500mを通過した時福大に2・5艇身リード。余裕を持ってゴールインした。ピッチ28であったが、ピッチ32の予選に比べて2秒しか遅れなかった。

対抗決勝……スタート3本で空漕ぎが一本あったが100mでは山大に1/2艇身、熊大に2m遅れ。山大は強くじりじり熊大、長大をひき離す。熊大には1/2艇身ぐらいでついていき、ラストスパートでは大接戦だったが、結局熊大がキャンパス差で2位。

Bクルーオープン予選……スタートでキャンパスだけ負けたが次のコンスタント10本で半艇身リード。その後、徐々に差をひろげ、700mで4艇身、ゴールで6艇身差。

Cクルーオープン予選……練習ではA、Bに大きく立ち遅れていたが、試合では善戦した。熊大Cには猛烈にラストで迫ったが、惜敗。

Bクルーオープン決勝……スタートでは熊大と並ぶ。700mまで2艇

身差リード。ラストスパートで逃げきり、結局2艇身差のまま

ゴールインして初優勝を飾った。

オープン4位決定戦……予定外のレースだったが、オープンは敗復

がなくもう一回漕ぎたいという意見が強く行なわれた。Cクル

ーが楽なレースで4位となった。

※ ※ ※ ※ ※

我々が主管した大会。OBの方々も協力もあり成功した。高久部長の開会で始まった。ここで特記すべきはBクルーがオープン優勝した事である。小さな大会のしかもオープンではあるが、ともかく「優勝」と言えるのは史上初であるから意義のある事である。夜の部も各大学で親交を深め成功だったと思う。

九州朝日レガッタ

試合日……55年5月24、25日

場所……北九州市河内貯水池・1000mコース

種目……シェルフォア(A、Bクルー)……18クルー出場

ナックルフォア(Cクルー)……20クルー出場

(シェルフォア予選)		順位	タイム
長崎大医B	3'47"5	4	
熊本商大	3'39"3	1	
新日鉄八幡	3'42"2	2	
九州大A	3'46"5	3	
山口大B	3'33"2	1	
西南学院大	3'37"9	2	
長崎大医	3'40"6	3	
(シェルフォア敗復)		順位	タイム
九州大A	3'42"8	1	
長崎大	4'01"7	4	
福教大	3'55"5	3	
長崎大医A	3'46"0	2	
長崎大医B	3'42"1	1	
熊本大紫電	4'15"0	4	
熊本大医A	3'42"4	2	
九工大	4'05"8	3	
(シェルフォア準決)		順位	タイム
新日鉄八幡	4'32"8	4	
山口大B	3'23"4	1	
九州大B	3'37"7	2	
長崎大医A	3'43"1	3	

成績		クルー	
Aクルー(シェル)	準決勝進出	Aクルー(シェル)	Bクルー(シェル)
Bクルー(シェル)	準決勝進出	C松尾(学2)	C山近(学3)
Cクルー(ナックル)	予選敗復活落ち	S永見(学2)	S永山(学2)
		3日高(教2)	3糸柳(教2)
		2小林(学1)	2中里(教2)
		B中崎(学2)	B今里(学1)
			S松岡(教2)
			C倉富(学3)
			Cクルー
			S松岡(教2)
			3平野(学1)
			2矢次(教2)
			B岡田(学2)

(シェルフォア準決)		順位
長崎大医B	3'33"0	3
熊本大A	3'22"9	1
八幡工業高校	3'24"4	2
(シェルフォア決勝)		
鹿児島大	3'18"8	1
熊本大医A	3'21"0	3
山口大B	3'19"5	2
熊本大A	3'26"4	4
(ナックルフォア予選)		
三菱化成A	4'04"7	1
長崎大医C	4'25"6	2
九工大C	4'33"3	3
(ナックルフォア敗復)		
鹿児島大	4'07"9	1
熊本商大	4'21"4	2
長崎大医C	4'24"1	3
九工大C	4'34"2	4
(ナックルフォア決勝)		
新日鉄	3'40"3	1
佐賀大	3'41"2	2
三菱化成A	3'44"4	3
九州大D	3'45"3	4

試合経過

Aクルーシェルフォア予選……スタートは山大と並んでトップ。

550m位までは山大に半艇身差でおいかけ、西南に半艇身差リード。しかし山大は強くじりじり離され、ラストスパートであつという間に西南に抜かれ敗復行き。しかしクルー編成2週間にしてはまあまあ漕ぎだった。

Aクルーシェルフォア敗復……スタートは九大、福教大について3位。550mまで3艇がデッドヒート。次第に九大ができて、ものすごいピッチの福教大が遅れだす。2位で準決進出。

Aクルーシェルフォア準決……昨日とはかわって強風と高い波。スタートはトップ30m附近では新日鉄が半艇身リードで山大、Aクルーが追う。その後新日鉄が遅れだし、3艇デッドヒート。岸からはものすごい声援で、我々はレンジも長く、非常に気合がはいっており、いけると思った矢先、2番が切れこませて艇は完全にストップ。新日

鉄も強風と高波の為、漕手が一人転落。結局、山大の独走となり、大きく遅れていた九大にも抜かれた。しかし漕法には間違いはなく今までの練習を続けければのびるだろう事を確信した。

Cクルーナックル予選……評判通り三菱が圧倒的に強く、九工大には水をあげたが、敗復行き。

Cクルーナックル敗復……鹿大はやはり強く、熊商大には頑張つて着いていったが、オーバーペースがたたってか、ラストで水をあげられ、結局3位。

Bクルーシェル予選……スタートからややバランスをくずし、また後半もピッチが上がらずそのままゴールした。一本一本の漕ぎの強さも今一つで不本意なレースだった。

Bクルーシェル敗復……前半は熊大医学部に半艇身程遅れていたが、後半頑張つて熊医とデッドヒートの未一位でゴールした。ピッチ、バランス共に予選より良かった。なお、この熊医クルーは決勝で3位となったのである。

Bクルーシェル準決……強風、高波の為、バランスを崩しがちだったが、トップに一艇身以内にくっついて750mまできた。しかし2番が切れこませて、Aクルーのように艇は完全にストップしビリになってしまった。いい感じだっただけに惜しいレースだった。

シエルは2クルーとも切りこませて自滅するという結果になってしまった。まだまだではあるが、クルー編成して2週間しかたつておらず、のびつつある事は確信した。

県 漕

試合日……55年6月1日

場所……長崎県琴海町形上湾・1000mコース

種目……ナックルフォア・15クルー出場

クルー

成績	タイム	順位	Aクルー	Bクルー	Cクルー	Dクルー
Aクルー……優勝			茂木	長崎大B	長崎大医D	佐世保工専A
Bクルー……準優勝			佐世保工専E	長崎大医A	佐世保工専B	園漕会A
Cクルー……準決進出			佐世保工専C	長崎大A	長崎大医B	
Dクルー……準決進出			園漕会B	長崎大医C	佐世保工専D	
(予選)			茂木	長崎大B	長崎大医D	佐世保工専A
	4'02"6	2		4'24"4	4'02"3	4'03"5
		3				
	4'00"7	3		3'54"1	4'01"4	4'00"0
		1				
	4'06"0	4		4'02"6		
		3				
	3'58"8	2		3'57"6		
		1				
	3'51"0	1		4'00"5	4'01"5	
		2				
	4'00"5	2				
		3				

- Aクルー C松尾(学2) C山近(学3) C倉富(学3) C岡田(学2)
- S永見(学2) S永山(学2) S松岡(教2) S倉富(学3)
- 3日高(教2) 3糸柳(教2) 3矢次(教2) 3末永(学2)
- 2小林(学1) 2中里(教2) 2平野(学1) 2中山(教1)
- B中崎(学2) B今里(学1) B岡田(学2) B高須(教1)

タイム

(準決)	タイム	順位
長崎大医C	4'12"4	4
" D	4'09"8	3
" B	4'07"2	2
園漕会A	4'01"0	1
長崎大医A	3'59"5	2
長崎大A	4'08"6	3
園漕会B	3'59"0	1
茂木	4'13"2	4
(決勝)		
園漕会B	4'02"8	3
長崎大医B	3'59"4	2
" A	3'56"7	1
園漕会A	4'05"2	4

試合経過

Aクルー予選……去年まで圧倒的に強かった園漕会Aといきなりあたった。練習は充分やり手答えもあつたが、やはり不安であつた。スタートは園漕会Aがトップ。コンスタントには自信があつたので、じっくり漕いだ。400m附近で園漕会をとらえ、ゴールした時点では他艇を2、3艇身は離して、一位で準決へ。

Bクルー予選……一漕ぎ一漕ぎが力強くて、終始トップでゴールすることができた。

Dクルー予選……パウペアの新入生二人にとっての初陣である。スタートでは茂木が飛び出した。その後全学は次第に遅れ、佐世保工専とせりあつた佐工専のピッチが上がるのに対し、我々は整調のうまいローピッチで、わずかの差でピッチリくつていった。ラストで勝負をかけ、佐工専をひき離す。更にいつ

のまにか茂木も抜いており、一位で準決へ。整調ペアはさすがは去年の対抗クルーだけの事はあるようだ。新入戦のデビュー戦は断トツでビリというジnkスを碎いたレースであった。

Aクルー準決……予選では園漕会Aとあつたが、今度はBとあつた。予選のタイムからしてBの方が実質上のAクルーであろう。スタートで園漕会に大きく離され、50mでも1・5艘身差。ピッチが遅すぎたようで、80mからラストスパートをかけたらくいぐいと園漕会に迫つたが、わずかに及ばず2位。

B、C、Dクルー準決……4杯レースのうち3クルーが長大医学部クルーという豪華な(?)レースであった。コックスが足らずOBの成松さんと難波さんにコックスをして頂いた。Bクルーはスタートで3番がシートをはずした為大きく遅れた。園漕会が終始トップで、C、D、Bの順であった。負けられないBクルーは、足蹴り又足蹴りでC、Dを抜き決勝進出をはたした。Cクルーはその後新入生が二人乗るDクルーにも抜かれてしまった。

決勝……医学部A、Bと園漕会A、Bの勝負。Aクルーは準決で、前半でのんびりしすぎて失敗しているので、今度は最初からとばした。スタートは園漕会がやはり強かったが30mまでには並んだ。Bクルーもスタートは悪かったが、50m附近からがんばり園漕会を抜き2位。Aクルーは力もはいる堂々と優勝。

1、2位を独占するというりっぱな成績。しかも新入生クルーも準決進出した。苦しかった早朝練習のいかいもあったというもの。その晩はみんな勝利の美酒に酔いしれたものでした。

西日本医科学生総合体育大会

試合日……55年8月1、2日

場所……鳥取県米子市錦海漕艇場・1000mコース

種目……シエルフォア(A・Bクルー)及びナックルフォア(C

・Dクルー)

クルー

Aクルー(シエル)

Bクルー(シエル)

C松尾(学2)

C中里(教2)

S永見(学2)

S永山(学2)

3日高(教2)

3岡田(学2)

2小林(学1)

2山近(学3)

B中崎(学2)

B今里(学1)

Cクルー(ナックル)

Dクルー(ナックル)

C中里(教2)

C松尾(学2)

S松岡(教2)

S倉富(学3)

3矢次(教2)

3末永(学2)

2糸柳(教2)

2中山(教1)

B平野(学1)

B高須(教1)

成績

Aクルー…準決進出(シエル)
 Bクルー…準決進出()
 Cクルー…準決進出(ナックル)
 Dクルー…準決進出()
 タイム (27クルー出場)

(シエルフォア予選)
 1位 岡山A 3'55"0
 2位 広島B 3'58"0
 3位 長崎B 4'10"7
 4位 京府医大 4'16"0

1位 熊本A 4'00"6
 2位 長崎A 4'03"8
 3位 浜松医大 4'07"2

(シエルフォア敗復)
 1位 長崎B 3'59"3
 2位 浜松医大 4'00"5
 3位 熊本B 4'17"7

(シエルフォア準決)
 1位 滋賀医大 4'07"8
 2位 岡山A 4'08"7
 3位 長崎A 4'10"4
 4位 岡山B 4'27"4

1位 広島B 4'08"3
 2位 鳥取A 4'16"7
 3位 長崎B 4'23"2

(シエルフォア決勝)
 1位 滋賀医大 4'13"6
 2位 広島B 4'14"9
 3位 岡山A 4'25"8
 4位 京都 4'28"4

(ナックルフォア予選)
 1位 岡山A 4'20"7
 2位 長崎D 4'27"1
 3位 滋賀医B 4'38"0
 4位 熊本A 4'55"1

1位 長崎C 4'35"2
 2位 滋賀医A 4'45"7

(ナックルフォア準々決)
 1位 長崎D 4'07"5
 2位 浜松A 4'08"1
 3位 佐賀医大 4'18"7

1位 長崎C 4'29"8
 2位 滋賀医A 4'34"6
 3位 和歌山A 4'43"9

(ナックルフォア準決)
 1位 鳥取B 4'41"3
 2位 京都B 4'41"5
 3位 岡山C 4'45"3
 4位 長崎D 4'47"0

1位 岡山A 4'28"0
 2位 京都A 4'30"0
 3位 広島A 4'44"0
 4位 長崎C 4'48"1

(ナックルフォア決勝)
 1位 京都A 4'29"8
 2位 岡山A 4'40"2
 3位 鳥取B 4'45"7
 4位 京都B 4'55"3

試合経過

シエルAクルー予選…1レーン浜松、2レーンはライバル熊本。このコースは海であり、波が荒く逆風であった。スタートは浜松、熊本、長崎の順。600mぐらいまでこのままの順で一艇身以内に3艇が並ぶ。ピッチは我々が断然遅い。700m附近から浜松が遅れだし、熊本にはじわじわ水をあげられ、結局一・五艇身差で2位。予選は通過したが、ピッチをおとしすぎて失敗した例だろう。

シエルBクルー予選…スタートが乱れたため、岡山と広島に先行される。京都府立医大にはなんとかリードして徐々にひき離す。岡山、広島とは差は開くばかりで、3位で敗復ゆき。

シエルBクルー敗復…3杯の一杯上がり。熊本は遅れていたの、浜松との勝負だった。午前中の予選でAクルーが戦ったクルーである。スタートは若干失敗し、レーンのブイにぶつかりながら、一艇身先行する浜松を追う。100mで並び、500mでは2艇身差をつ

ける。しかし70m附近より浜松は猛烈にピッチを上げ勝負をかけてきた。80mで一艇身、90mで半艇身まで追いつかれた。なんとか逃げ切って、結局キャンパス差でゴール。ストロークがピッチに勝ったといえようか。

シエルAクルー準決……相手の岡山、滋賀医共に優勝候補である。捨て身でチャレンジするしかない。スタートからとばしたらトップ。500mもトップで通過。ピッチを若干おとしてじっくりひく。700m過ぎても横に艇は見えない。750mからラストスパートにはいる。3、4本漕いだ所で突然の横波、艇が揺れ、スプラッシュが上がリ、更に岸からの反射波にまた襲われる。一瞬の悪夢のうちに岡山、滋賀に抜かれる。残り200mを懸命に漕いだがだめだった。あの横波は他艇も受けたはずだが、我々だけが大きく乱れてしまった。結局、決勝で滋賀は優勝し、岡山は3位になった。

シエルBクルー準決……スタートから乱れ、300mに行かないうちに広島、鳥取と2艇身以上離され、漕ぎにどういわけか精彩がなかった。抜くまで足蹴りという気迫はあったが、差は開く一方でゴールイン。

ナックルCクルー予選……滋賀医との一騎打ち。体格的には劣っていたが、スタートからゴールまで悠々のレースであった。

ナックルDクルー予選……岡山に次いで2位で準々決へ。このタ

イムは、条件は違っているとはいえ、27クルー中3位という好タイムであった。

ナックルCクルー準々決……楽に一位で準決へ進めたが、バテ方が著しく、ラストスパートは全く不出来だった。

ナックルDクルー準々決……佐賀医大は遅れており、スタートからゴールまで浜松医大とデッドヒート。お互いにコンスタントとスパートの応酬であった。キャンパス差で1位。

ナックルCクルー準決……京都、岡山と強豪が相手。やはりこの2クルーにはかなり離され、広島にがんばつてついて行ったが、結局一艇身は開いてビリ。ストロークが短く全くだめだった。

ナックルDクルー……相手も強い所であったし、前の準々決で力尽きたか、全くの完敗。

※ ※ ※ ※

期待されたAクルーであったが、結果的にはやはり決勝へ行けなかった。強いと言われながらもろかったのは、それなりの原因があるはずである。それにしても優勝した滋賀医大と3位になった岡山大に800mまで勝っていたのだから、極めて残念である。

夜のレセプションでは鳥大の方々の快いもてなしをうけ、他の大学の人達と交わり良かったと思う。

全日本大学選手権競漕大会

試合日………55年8月22、23、24日

場所………戸田オリンピックコース・2000m

種目………シエルフォア(45クルー出場)

クルー………シエルフォア(45クルー出場)

成績
敗復おち

試合経過

初の全日本参加で、我々の力がどの程度通用するか全くわからなかった。また2kmレースも初めてである。結局はスタートからゴールまで最下位だった。500mまでは5位の中京大に一艇身程でくいつき、6レーンの香川大とは並んでいるようであった。問題の後半はやはりあまりのびずに、ラストスパートでは5位の香川大に少し水をあげられた。

※ ※ ※ ※

ボートレースとしては最高の全日本学生選手権へ初参加。クルー5人と山近さんの6人で戸田へ乗り込んだ。日本漕艇協会のプリントミスの為、予選に参加出来ず最初から敗復へでた。やはり日本の壁は厚かったが、決して彼らも特別な事をしていのではないと思つた。我々もやれると思う。

熊大対抗戦

試合日………55年10月26日

場所………熊本市江湖・900mコース

種目………シエル対抗・シエルオープン・ナックルオープンクルー

Aクルー(シエル対抗) Bクルー(シエルオープン) Cクルー(ナックル)

C松尾(学2) C中里(教2) C倉富(学3)

S永山(学2) S今里(学1) S山近(学3)

3日高(教2) 3矢次(教2) 3平野(学1)

2小林(学1) 2中山(教1) 2永見(学2)

B中崎(学2) B岡田(学2) B末永(学2)

成績

3種目とも熊大に勝つ

試合経過

対抗シエル(Aクルー)………強風でコンディションは悪かった。

スタートから一艇身リード。ラストスパートで幾分その差をつ

かつしこもり、谷谷りるるノースごっこ。

(シエルフォア敗復) 1000m

長崎大学医学部	3'52"10	ゴール	7'59"70	順位	6
中京大	3'50"73		7'48"99		5
早大理工	3'45"27		7'38"15		1
防衛大	3'49"39		7'38"78		2
東京外語大	3'48"64		7'41"07		3
香川大	3'48"25		7'48"31		4

(シエルフォア決勝)

法政大	3'28"90	7'04"39	3
静岡大	3'22"26	6'53"72	1
新潟大	3'25"43	6'55"51	2
愛媛大	3'32"72	7'10"13	5
東北大	3'28"00	7'04"98	4

オープンシユル(Bクルー)……コンスタントに移った時点で熊大
と一艇身以上差があり、300mでは2艇身差。ピッチ漕法の熊大は
それでもじわじわ迫ってきたので、足蹴り、ボディスイングでつ
き離し4艇身差でゴール。しかしバランスが悪かった。

※ ※ ※

不手際によりタイムを得られなかったのをおわびします。例によ
って前の晩にレセプション。明日の試合を気にしながらも飲み騒い
だ。熊本の方々はお世話になりました。結果は3種目とも勝ち去
年の仇討をした。以た者同志の仲なので熊大、長大共に西医体では
頑張りましょう。

宮城杯

試合日……55年11月2日

場所……長崎県大村市東浦湾・1000mコース

種目……ナックル・13クルー出場
クルー

Aクルー	Bクルー	Cクルー
C 松尾 (学2)	C 中里 (教2)	C 松尾 (学2)
S 永山 (学2)	S 今里 (学1)	S 山近 (学3)
3 日高 (教2)	3 矢次 (教2)	3 平野 (学1)
2 小林 (学1)	2 中山 (教1)	2 倉富 (学3)
B 中崎 (学2)	B 岡田 (学2)	B 末永 (学2)

成績

Aクルー……優勝
Bクルー……3位
Cクルー……予選落ち
タイム

	順位
(予選)	
園漕会 A 4'25"2	2
長崎大医 A 4'21"9	1
佐世保工専 B 4'39"2	3
" F 4'42"4	4
長崎大医 B 4'32"2	2
茂木 B 4'30"3	1
佐世保工専 A 4'36"0	3
長崎大医 C 4'40"0	3
園漕会 B 4'27"3	1
佐世保工専 E 4'30"2	2
(準決)	
長崎大医 A 4'19"0	1
佐世保工専 C 4'23"0	2
茂木 B 4'33"3	4
佐世保工専 E 4'27"7	3
佐世保工専 D 4'39"4	4
園漕会 B 4'33"0	2
長崎大医 B 4'32"0	1
園漕会 A 4'34"0	3

試合経過

Aクルー予選……スタートからゴールまでトップ。

Bクルー予選……スタートもよくコンスタントで
次第に差を広げて行ったが、600m附近でパウガ
シートをはずし、さらにつける時に尻をレー
トスパートをかけ何とか2位で準決へ。

Cクルー予選……練習不足やケガ人のでたクルー

(決勝)

長崎大医 A 4'40"5	1
佐世保工専 C 4'46"5	2
長崎大医 B 4'52"0	3
園漕会 B 4'55"7	4

で当然の結果として完敗。

Aクルー準決……予選同様余裕を持って一位。

Bクルー準決……スタート、ローイングはよかったが、意外にコンスタントが伸びず園漕会に迫られる。それでも一艇身近く差をつけて1位。

決勝……スタートはBクルーがよくて一位。しかしAクルーはすぐに抜き返して終始トップを保ち優勝。Bクルーは佐世保工専と2位争い。レーンがはっきりしていないので両艇は接触する位でデットヒート。結局佐工に差をつけられ3位。

※ ※ ※ ※

井上さんが東京から見に来てくださったのを始め、多くのOBの方々に見守られた大会だった。Aクルーは当初から優勝を期待されいたため、優勝してうれしかったというよりもむしろ、ほっとした感じであった。我々と縁の深い宮城杯を勝ちとった事は、意義のあることであろう。

部員雑感

学生時代

学Ⅲ 倉 富 彰 秀

医学生は他の学生とは違い、大学で6年間勉強する。20才前後の最も大切な充実した期間をこの大学でおくるわけだ。それだけに6年間、あるいはそれ以上をいかに過ごすかでその後の彼の生き様が、精神が、人間というものが、方向づけられてくる。

ボートをやれと言いたい。練習もきついだろう。けれども流した汗の中に、彼は希望のあすを見つけるだろう。そしてひとこと

何歳まで生きようとも、50歳でも100歳でも、

その年数ではなくて、いかに生きたか。

その生き方が大切だ。

自分に期待できる自分自身でありたい。

人に期待するものでない。

その瞬間、一所懸命に生きて

前向きにならいつ倒れてもいい。

そんな日々でありたい。

まず日々の生活があり

生きてゆく為の勉強があり
悩みばかりでもない

泥まみれでもない

ひたむきに

力強く

汗まみれの毎日なら。



目とメガネの出会い

学Ⅲ 岡 田 代 吉

僕の目は決して大きくないが小さすぎもせず、わずかに、たれており、また、目と目の間がちょっと離れているが、それも遙かかなた……というわけでもなく、ちゃんと鼻梁はついておることから、ダウン症候群ではない。他に眼瞼下垂、瞳孔不同もなく、対光反射、調節反射も正常で、その他諸々の異常所見もなく、これらの点では、まあ自分では満足しているが、こういう外見の平穩とは別に、内部には少し問題があるようだ。

最近、少し濁りが出てきたように思われる。これは年令を経るにつれて、次第に大人の世界が見えるようになり、それまでの純粹さが失われてきたこともあるが、それは別として少しづつ、視力が低下してきてメガネをかけるようになった。即ち、近視になったのである。

メガネを初めて掛けてからもう4年になるが、これは僕にとって重大なことであった。ショックであった。

元来、僕は目の悪い人あまり良い印象をもっていなかった。それは、メガネを掛けている人が、はずして物を見るとき、眉間に醜くシワを寄せるのを見て『なんて人相が悪いのだろう』と思ったことから始まる。親、兄妹、誰一人としてメガネを必要としない家族の中で育った為、勉強のやり過ぎのためか友人に近視の人が増えていく中で目だけは誰にも負けない自信があった。しかしこの自信も高3から予備校にかけての二年間でアッサリ崩れ、今やメガネとの授業中だけのお付き合い“が始まって四年たとうとしている。

目が悪くなったプラス面をあえてあげるとするならば、遠い所がボンヤリ見えるので、道ですれ違う女性の多くが美しく見えること（これはかなり精神的欲求も働いて……）であるが、これは、近づいてみると現実が明らかにになるので、ほんの瞬間の喜びでしかない。やはり目が悪くなると、いろいろと不都合な点がでてくる。特に僕など、授業中以外はメガネを掛けないので、先輩や友人に道で出会った時、直前までこないと気付かないことがあり、非常に迷惑をかけたなあと思うことがしばしばある。今後は、こんな無礼な事がないようにできるだけ授業外もメガネを掛けるようところがけるつもりではあるが、メガネを掛けない僕に道ですれ違うような時は、ちょっと離れた所から声をかけるなり、手を振るなり、してもらえればありがたいのだが……。

最近、僕の目は更に悪くなり今のメガネでは用が足せなくなってきつつあり、せっかくの楽しいはずの講義を、十分に満身に受けることができなくなっているのが現状である。そんな理由で授業に出たいと思いつつも、ついつい、学校から足が遠ざかったりするところもある。そんな時に、元気に遊んでいる子供の純粹な目を見ると「目を大事にしとくと、悪くなると学校に行きたくなくなるヨ！」と、声をかけなくなる今日近頃である。

いけない子

学Ⅲ 中 崎 隆 行

一学期の頃は日夜ボートの事ばかり考え、他の事は一切目に入らなかつたのであるが、二学期の後半、さらに三学期になり、ボートが少し暇になると、何となく寂しく自分をみつめ直すのが毎年の事である。

元来、僕はいのしし年生まれのせい、猪突猛進するところがあり、それがボートや勉強にできればよいのであるが、(もちろんシーズン中はボートにそうである。勉強に夢中になったことはあまりない。)人を好きになつたりすると、わやである。学校や試験はそつちのけで好きな女の子の事ばかり考え、ついには勉強なんてどうでもいいやなどと途方もないことを考えるのである。もっとも、その時はそれが途方もないとは気づかないから、もっと怖いのであるが。しかし、恋をするというのは本当は素晴らしいことであり、たとえ、そのために精神状態が不安定になり、何度も泣きたいような思いをしても、そういうことがあつてこそ、楽しい人生なのではないかと、最近では無理に思いこむようにしている。

恋をして変化すること

- ぼんやりしていることが多くなる。
- 学校にあまり行かなくなる。
- 金の出費がかさみ、親に無理をいって(うそをついて?)金をもらい、いけない子になってしまう。
- 生活が不規則になる。
- 酒を飲みたくなる事が多くなる。

• 鏡をみる事が多くなる。

こんな不安定な日々をおくりながら、またやって来るあの汗と涙(うれし涙にしたい)のボートの夏を、一方では多少おびえ、一方では楽しみにしている今日この頃である。

対抗クルーのあり方について

学Ⅲ 永 見 耕 一

私は今年、九州朝日、県漕、西医体と対抗クルーの整調を漕がせてもらったわけです。それで九州朝日は昨年と同じ準決止まりだったが、県漕は初優勝できたし、西医体は予選を一発で通過して、準決では優勝した滋賀医大クルーに3秒しか差をつけられないでゴールした。決勝にはいけなかったが、応援に来てくださった丹羽、井上両先生が肩身の狭い思いをされなくて良かったと思う。自分としても4年間の中で最も思い出に残る西医体となった。

さてここで、クルーのあり方について一考してみたいと思う。私は今まではつきりいって練習がきらいでしようがなかった。何かといえ手は抜いて楽をしようと思っていたが、対抗クルーの整調をするようになって少なからず気持の持ち方が変わってきたと思う。クルー内においてケガ人も全く出なかったこともあって、県漕の前など他のクルーが朝練習などをしないのに自分たちだけはやった。

クラブを代表するクルーだと思ったら、そう苦でもなかった。しかし、最初は苦にならなくとも疲れがたまってくると、フラストレーション気味になって、他のクルーが練習しないのに（これはあくまで対抗クルーよりはという意味である）腹が立ってきて、衝動的に他のクルーの人にシビアなことを言いそうになったこともあった。対抗クルーの漕手は、部長副部長のようなみんなを引っばっていくような人がなるべきではないと思う、雑用が多いうえにきつい練習をしていると、衝動的に、自分たちがこれだけ練習しているのだから他の者も同じだけするべきだと考え実行するようになることが多々あると思う。そうなればクラブは非常に危険な方向に進むと思う。この意味からも漕手は学Ⅰ、学Ⅱ、で編成すべきである。3年、4年目は最も油の乗っている時だし、クラブだけしておけばよいからだ。対抗クルーは他のクルーよりもよけいに練習していいと思う。本人も自覚するし、みんなの期待もあるから、それほど苦にはならないはずだ。来年は東北大の漕法を取り入れて2年目だ。板についてきたと思う、対抗クルーの活躍を期待したいものです。

勝 つ

学Ⅲ 永 山 雄 二

一 昨年の暮れの東北大漕艇部合宿参加を契機に漕法及びトレーニング法を改良してはや一年、予想以上に早く効果が現れて、昨年は県漕、宮城杯、熊大対抗戦に優勝することができた。しかし、九州朝日レガッタ、西医体ではいい所までいきながら決勝進出は果たせなかった。今年、その壁を打ち破るためこま、いろいろ問題まらるが、

僕の思っていることをいくつかあげてみよう。

まず第一にもっと徹底した漕法の改良が必要である。以前に比べてストロークは長くなり、かつ足だけでなく、上体、腕を有効に使えるようになったが、まだキャッチ、フィニッシュの甘さ、フォワードの粗さが目立つ。

第二に、陸トレにおいて最大筋力、筋持久力、心肺機能を確実に高めていくこと。特に最大筋力はオフのうちにつけておくのがよいと思われる。

第三に常に考える。どんな練習をやっている時にも、なんの為にやっているのか、自分の弱点はどこか、どうすればできるようになるか、など常に頭を使うべきである。ただノルマを果たして、時間がくればやめるというやり方では、練習の効果は上がらない。乗艇練習のさいにはイメージ漕法も一つのよい方法であろう。

第四にボートに関してバカになれ。これについては何もいうことはない。要するにバカになればよいのである。ただし第三の「常に考える」と混同しないように。

他にもいろいろいい事はあるが、とにかく勝とう。スポーツは勝たないとダメだ。最後に東大漕艇部は、「2位以下はタダの人。」

狂うジンゲ?

学Ⅱ 今里雅之

人はどうして切羽詰まらなければ、事を始められないのだろうか。テストなんてものは、前もってやれば楽勝と、テストを受けだした幼小より今に思い至るが、そこはかとなく湧きいづる自信の泉に克己心などあっさり溺死するのである。ああ幼小の、あの古き良き時代に、克己心に泳ぎをおしえていればよかったと地団駄踏むのである。

これはどうも、束縛される事は避けたい、避けられないものなら、せめても後に回したいという気持が根底にあるからだろう。

またどうして同じ事を繰り返せないか?

同じ事を繰り返せば、その事は完壁になると分かっているでもできない。「飽きる」ことは、間違った方向へ自分を導かせないための本能であると勝手に思っているが。

こういった意志の弱い自分ながら、今まで何を一番長くやってきたかといえば、本能的な行動を除くと、ボートということになりはしないか。ちっとびっくりしてもいいんじゃないか。これは、ボートを何のためにするのかという次元の問題でなく、自分はボートをする運命にあったという言い方が適切だと思われるくらいだ。

しかし良く考えてみると、今までボートを続けてきたのは、ボートそのものが好きでたまらないんじゃないかと、他にいろんな楽しいスポーツがある中で、原始的なスポーツ、ボートを選んだボート部に愛着を感じているからかもしれない。

どうしてもヒトを楽な方向、安易な方向に流そうとする煩悩に打

ち勝って、ボートをやるというこのはかりしれない気概、クソ意地を持ったボート部員を愛さずにはいられない。

結局、何かをするためには、愛が必要なんです。

だから、みんな、ボクを愛して……

Funnier Stories

学Ⅱ 小林誠博

いつの頃からか私たちは、艶小説を、男女の露骨な愛欲をテーマとした特殊な席で語られる低俗卑しいエロ話ときめつけ、これを遠ざけてきた。しかし、小話はそんな狭いものではない。そこには、上は王侯貴族から下は乞食、浮浪者に至る、あらゆる階級のものが顔を出し、赤裸々な人間模様を明けっ広げに描いている。ここに、高踏な純文学などでは味わえない強烈な体臭がある。アメリカ製小話は、フランス小話などに比べれば、洒脱さに欠け、泥臭い面もあるが、この泥臭さこそ庶民の味であり、ここに本当の人間の姿を見る。

小話には、踊りで言えば素踊りのむずかしさがあるといわれるが、アメリカ小話などは心理描写の明解な人情ものが多く、サゲをみて、アメリカものならではの陽気さがある。話の型としては、一読して一笑に付せるたわいもないバレ晰と、江戸の古川柳「能の皮見て女房のぎりをいい」式の高度の連想力を要するものが、主として後者の方にこの種の小話の真髄があろう、

世相や人情を皮肉な目で五・七・五の十七文字に詠みこむ川柳は、一般に江戸時代の中ごろ江戸におこってしだいに盛んになっていたとされる。しかし、源流は意外と古く、室町時代に流行した連歌の

修練の方法である前付にさかのぼることができる。前付付とは、たとえば「切りたくもあり切りたくもなし」という前付題に対し、「さやかなる月をかくせる花の枝」と、当意即妙の付句をもって応じるたぐいの技法である。

川柳を、それから独立した文芸の一ジャンルとしたのは、柄井川柳であった。といえはおわかりだろうが、川柳の名称は創始者の名にちなむ。川柳、つまり創始者の川柳は、享保三年（一七一八）、江戸浅草の名主の家に生まれ、宝暦七年（一七五八）、四十歳の時に点者としてデビューした。江戸で前付の流行が絶頂期を迎えようとしていたころだ。

点者というのは、句の出来ばえを判定する人のこと。当時の川柳界は、水茶屋などの人の集まる場所に「川柳万句合取次」という募集広告を出し、投句者は点料（判定してもらおう謝礼）を添えて、取次に自作を話すシステムになっていた。

柄井川柳在世の頃は、一句につき十二文の点料だったというが、点者は選句して入選句を摺り物にし、入選者に対して景品を贈った。それに要する費用の合計と点料の差額が点者の収入となるわけである。おもしろいことに柄井川柳は、名が知られているわりには一句も川柳を残していない。どうやら、点者として徹底していたらしい。一見なんの変哲もない句だが、ちよっぴりエッチなエロチック川柳を次に示す。さて、ほんとうに興味するところは？

越前は 肥後に加勢を たのむなり

はまぐりが 雀になると 寝るのなり

赤坂を 御油の間で 頭痛がし

ペーロンを漕いでみたい!!

学I 糸 柳 則 昭

今年はず中で体を壊してしまい全くさえなかった。ボート部の皆さんにも大変迷惑をかけてしまった。できるだけ早く復帰したいと思う。

ところでこの場を借りて一つの提案をしたい。それはペーロンの事。長崎の伝統として今も盛んだが、ボート部でこれを漕いでみませんか？みんな、この若い時に同じ長崎の地に学ぶことになったのも何かの縁だし、その地の伝統に触れて見るのも意義深い事だろう。詳しい事は何もわからないが、ペーロンにボートの技術を使えるかも知れないし、ペーロンの技術をボートに生かせるかも知れない。やがては競漕にくわえてもらって、ひょっとして香港に行けるかも知れない。どうだろうか？皆さん！

Goches Sprichwörter

学I 日 高 真

今年はず中で作品を多く読んだので、独断と偏見により選んだゲーテの格言について書いてみたい。

※ ※ ※ ※ ※

何事も延期するな。汝の一生は不断の実行であれ

身にしみる言葉である。 Never put off till tomorrow

what you can do today という諺もあるし、徒然草にも

雨の中を和歌を習いに行つたのを賞讃した章がある。早過ぎて悪い

似たような言葉に次のような物もある。

気分がどうのこうのと言って何になる？

ぐずぐずしている人間に気分なんかわからない。

今日できないようならあしたもできない。

※ ※ ※ ※ ※

いつかはゴールに達するという歩き方ではだめだ。一步一步がゴールであり、一步が一步としての価値を持たなくてはならない。

山の頂上を眺めて登りたいと思っても頂上には着かない。足元を見て一歩ずつ足を踏みださない限りは。人生2万5千日、一日一日になすべき事はある。ポート部の活動にしても同様だろう。

※ ※ ※ ※ ※

世界はかゆやジャムからできてはいない。固い物もかまねばならぬ。

喉につかえて死ぬか、飲みこんで消化してしまうかのいつれかだ。

困難にぶつかっても、恐れず悔らず、男らしく立ち向う気概がぼくにも欲しい。

※ ※ ※ ※ ※

義務の重荷から我々を解放し得るのは、その良心的な実行だけである。

わかりきった事ではあるが、行なうは難しである。試験前には非常に実感となる言葉である。似たような言葉に次のような物もある

活動だけが恐怖と心配を追いはらう。

※ ※ ※ ※ ※

真剣さなくしては、この世で何事も成し遂げる事はできない。外見的には悠々と柔和に、でも中味は真剣にいきたい。

※ ※ ※ ※ ※

絶えず努めて倦まざる者を我々は救う事ができる。至誠天に通ず、という所であろう。誠実に求めればいくらでも必ず報われるものである。西医体での優勝も決して夢ではない。

※ ※ ※ ※ ※

君の頭と心の中がきりきり舞いしているなら、それが何よりもでたい話。恋にも迷いにも縁のきれた人間は墓に埋められてしまうがよい。

世の中に悩みもなく全く平穩無事という人は絶対いらないからこそ、こう言えるのであろうが、若干慰められる言葉である。

※ ※ ※ ※ ※

ぼくも今年で4年目になる。あと何千年と続くであろう長崎大学医学部漕艇部の新しい歴史の一ページを創るためにぼくもわずかなりとも貢献したいと思う。

最後に Die Leiden des jungen werthers からの言葉を

ぼくの持っている知識なんて誰だって知り得る。——でも、ぼくの心はぼくだけが持っている。

とりあえず

学Ⅰ 松田直樹

西医体の準決は勝てない試合ではなかった。あと3年しかない。Aに乗って勝ちたい。

でも、もう足は長くない。

勝てない理由はわかってはいる。

- ・ボートにノスタルジアを感じるほど精神的に帰依していない。
 - ・一日に3本レースする程絶対的体力がない。
- 以上2点。

今年はとりあえず後者を目標に。

子々川のキス

学Ⅰ 矢次登

我々がボート部練習場子々川ではキスが釣れる。ドジョウのオスはキスの名人である。体は細くて先のがった長い胸びれがある。メスのほうは体がまるまるとして、胸びれは小さく先がまるい。メスは曲線美がある。梅雨の季節になるとドジョウは発情する。オスはメスの横腹にキスする。メスの皮膚にはキスマークが残るほど強烈なものだ。そしてオスは体をメスの腰に一回半巻きつける。メスは身をふるわせて卵を放出する。この身ぶるいがオスに伝わると、オスは精液を射出する。十分ほど、幾度となく、オスはメスをしめつけてそのたびに卵を出させる。

ところで、知人の話によると「キスは健康法にもなる」という。

唾液をぐくりとのみ込んでしまうと、これは胃酸によって成分が破壊され、もはやホルモンでなくなりタンパク質になってしまう。そこで彼女の唾液を受けとめて、自分の口の中に貯わえておく。次から次へと彼女の唾液をキャッチするのが、ホルモンをとるコツであるというわけ。

この説を聞いた時、私は経験もないことだし、スゴイと思った。考えてみるに、この説、彼女とキスを長く続けるという点、唾液ホルモンをとるという点からいえば、申し分ない方法である。

ホルモンというのは、自分の体の中で作られるものであるから、ホルモン剤など用いるのは賛成できない。ホルモン剤は飲み込むと駄目だから、歯ぐきの間にはさんでいて、口中の粘膜から吸収させようとする。もっといいのは、ホルモン注射だ。ただこれは一時的には元気は出るが、作るべきホルモンが他からもらえるので、ホルモンを作る器官がサボリ始める。それがかえって害になってしまう。その点、彼女のホルモンを吸引している分には、ホルモン剤をとったような害はない。ホルモンとして吸収もするが、それによって自分でホルモンを大いに作り出すように体が働き出す。これが取得だ。

話は大きく横道にそれたが、結局私は、ボート部にはいつてよかつたという事を声大に言いたい。

取りされるものであるから、その効があるのだという。すなわち、

昭和55年度の個人的総括と雑感

教Ⅱ 中 里 貴 浩

賞の部

九山ナックルオープンで優勝(4月)

九州朝日レガッタで準決勝進出(5月)

県漕で準優勝(6月)

罰の部

切れこまし一回(九州朝日)

コックスマス多数

田んぼに飛行一回(6月)

通行区分違反一回(7月)

記録

博多ー長崎間を2時間半で走破(4月)

(修猷館前→道ノ尾、CB400N)

以上見る様に、昨年の私にはモーターサイクルとボートしかなかった。入院して両方を失った後は枯木のように日々を過ごしたのだった。

仮に、第一次石油ショックから第二次石油ショックまでを高度成長から低成長時代への移行期とし、第二次石油ショックを経た現在を本格的な低成長時代とする。産業界は移行期で停滞したが、現在は新技術をもってこの時代を生き抜こうとしている。

やはり「いい物は売れる」いや「いいものしか売れない」時代になつていのである。自動車産業を例にとれば、昨年からの新車ラ

ッシュは二輪・四輪ともに激しいが、おのおの各メーカーの意欲作
というべき新技術を搭載している。二輪の世界ではホンダが2サイ
クルエンジンしか勝てないような規制が敷かれた世界GPに4サイ
クルで復帰した。―――かつて1960年に250ccDOHC6気筒を代表
とする強力なエンジンで50ccから500ccまでの全クラスのメーカーチ
ャンピオンを独占したホンダだが、その後ヨーロッパのメーカーの
圧力による気筒数とミッション段数制限が施行される直前1961年に引
退していたのである。

その新レーサーNR500にはホンダの新技術が多く盛りこまれていて、
特にエンジンはV型4気筒DOHCでピストンには何とだ円形、弁
の数は1気筒あたり8個、プラグは1気筒に2本という。さらに1
気筒あたり12個の弁があるエンジンも試作されているそうだ。市販
車のエンジンがほとんど1気筒あたり弁は2個であることを考えて
ほしい。このホンダの挑戦が単にGPでの勝利をめざしたものでは
なく、新技術の開発と自社製品への還元、そして自社の繁栄を目的
としている事は間違いない。

このホンダのチャレンジには学ぶべきものがあると思う。我がボ
ート部は今、日の出の勢いにある。そしてその勢いが停滞する時も
必ず訪れよう。その時、あるいはそれが来る前に我々は新たなチャ
レンジを開始せねばならない。そこに必要なのは向上心である。現
状に妥協した時、退歩が始まる。チャレンジとトライアルを繰り返
す限り、たとえそれが失敗したとしても少なくとも退歩はしないだ
ろう。なぜなら我々はそこから何かを学ぶはずだからである。

今年の格言

「富士山が高いのは、すそ野が広いから」

わすれじのDクルー

教Ⅱ 中山大介

グイッとシなつてスーと水中を走り、シュパッと抜けるオールの動きは力強く美しかった。キャッチするやいなや、豪快にせまりくる背中はおそろしかった。

夏の間ずっと、整調のオールと3番の背中を見て漕ぎ続けました。

このDクルー整調ペア、陸に上がっているときにはグズグズグズグズ、ブースカブースカ、いかにもロートルロートルしています。でも海に出て、くつ下をはき終えるころから目つきが変わってきます。ロートルぶりっここからあんな元気が出てくるのか、海も果てよと漕ぎまくり、幼いバウペアを振り回します。そして他艇を見つければ、必ずレースを挑んで疲れ切ったバウペアを泣かせます。泡を吹こうが足がろうがけられければとせめたてます。勝てばほうびに琴の海海水浴場。ねえちゃんたちを見れば疲れも忘れられるというものです。これが負けようものなら踏んだり蹴ったりぼろくそに言われ、バウペアはいじけてまた泣きますが、容赦なくシビアな特訓が開始されるのです。

おかげで強くなりました。競つても整調のピッチに逆らわずに漕げるようになってきました。グリップを3番のレバーのあたりにくいこませてしまうことも少なくなりました。パープリンバウペアも少しはおりこうになっていったのです。西医体の頃のDクルーは、ピッカピカとまではいかなかったが、なかなか光っていたのでありました。

まもなく夏は終わりました。そしてDクルーもはかなく消えてし

ハッピーな気分

教Ⅱ 山田稔

私がボート部に入ったのは、年の暮れもおしまり、街にはジングル・ベルの華やかな鈴の音があふれ、あわただしさと、にぎやかさと、ものさびしさのいりまじったような12月のさむい日のことでした。

入部してまだ日も浅い頃、忘年会があり *Beer* を飲みながら、鍋をつつき、なんだかんだと騒いでいるうちに、年が暮れてゆきました。

さて、年があけて、15日の初漕ぎの日。何しろ、ボートを漕ぐのは始めてで、朝から少なからずコーンしてました。成人式のでやかな晴着を横に見て、子々川に向かうアカッコの窓から見上げる空は、どんよりとくもり、今にも降りだしそうな気配。そして私が艇に乗りこむと、突然大粒の雨滴が落ち始め、ときおり吹きあれる突風に艇は木の葉のようにゆれ、かのタイタニックを北極海に沈めた嵐もかくやあらんというようなスコールの中を、私は漕ぎに漕いだのでありました。気持ちとしてはそれくらいだったのです。その後のぜんざいのうまかったこと。まさにハッピーな気分でありました。

昭和55年度 会計報告 (S 55.4 ~ S 56.2)

(支 出 の 部)

○ 試合遠征費 (交通費・宿泊費等)	
九 山	1 5, 8 1 0
九州朝日	1 3 4, 1 0 0
西医体	4 2 8, 8 2 5
熊大対抗戦	2 0, 6 5 0
宮城杯	7, 5 0 0
○ 試合エントリー費	
九 山	1 2, 0 0 0
九州朝日	1 5, 0 0 0
県漕 (含漕艇協会登録費)	2 0, 0 0 0
西医体	1 0, 8 0 0
宮城杯	4, 5 0 0
○ 合宿費 (食費・宿泊費)	
春合宿	1 5 3, 0 4 1
4月合宿	7 0, 9 5 8
5月合宿	3 7, 7 9 1
夏合宿	1 5 9, 2 0 1
10月合宿	4 5, 5 7 8
○ 艇運送費 (シェル2艇+オール)	
九州朝日 (北九州)	4 0, 0 0 0
西医体 (鳥取県米子市)	1 3 0, 0 0 0
○ 艇修理費・部品代	1 0 4, 3 5 5
○ ライトエース保険料	7 4, 4 6 0
○ ライトエース車検費	1 5 7, 0 0 0
○ ライトエース車税	3 1, 5 0 0
○ ガソリン代	2 3 0, 7 7 8
○ 卒業記念品代・結婚祝い代	5 5, 7 0 0
○ 事務費・雑費 (ハガキ・切手代)	3 0, 5 2 0
合 計	1, 9 9 0, 0 1 7

(収 入 の 部)

○ 部員負担金	1, 3 0 6, 0 0 0
部 費	1 9 0, 0 0 0
4月合宿	1 0 5, 0 0 0
5月合宿	5 1, 0 0 0
九州朝日	1 9 8, 0 0 0
春合宿	1 9 2, 0 0 0
夏合宿・西医体	4 7 7, 0 0 0
10月合宿	5 5, 5 0 0
熊大対抗戦	3 7, 5 0 0
○ バザー・コンパ収入	9 1, 6 4 2
○ O B 諸氏からの寄付	5 0 2, 0 0 0
○ 前年度繰り越し金	4 9, 2 5 7
小 計	1, 9 4 8, 8 9 9

合 計 一 4, 1 1 1 8

昭和56年度年間計画

3月22日～4月5日	春合宿
4月29日	九山 (於唐津)
5月14日～5月22日	強化合宿
5月23, 24日	九州朝日レガッタ (於北九州)
5月31日	県漕
7月12日～7月末	夏合宿
7月末 or 8月初	西医体 (於琵琶湖)
10月中旬	強化合宿
10月末～11月初	熊大対抗戦 (於長崎)
” ”	宮城杯

全日本、関西選手権については未定

長崎大学医学部漕艇部OB会会則

第一条	本会は、長崎大学医学部漕艇部OB会と称する。
第二条	本会の事務所は、長崎大学医学部漕艇部内に置く。
第三条	本会の目的は、漕艇部の円滑な運営の為に、精神的、物質的な援助を行ない、あわせて部員の身体 の練成ならびに人格の陶冶を図り、会員相互の親睦をはかるものとする。
第四条	本会は、漕艇部OBからなる一般会員ならびに本会の趣旨に賛同する賛助会員をもって組織する。
第五条	本会には左記の役員を置く (1) 会長 一名 会長を総理し、本会を代表する。 (2) 副会長 一名 会長を補佐する。 (3) 顧問 若干名 会長の諮問に応じる。 (4) 総務 若干名 会務の運営と会計事務 (5) 会計監査 一名 会計を監査
第六条	会長、副会長、総務、会計監査はOB会において互選し、顧問は、会長が委嘱する。
第七条	役員は任期は、一年とする。ただし再任は妨げない。
第八条	漕艇部顧問教官は、OB会に出席し、部の事情を説明しなければならない。
第九条	総会は、年に一度これを開くものとする。
第十条	本会の経費は、会費、寄付金及びその他の収入をもってあてる。
第十一条	本会の会費は、一般会員より徴収し、会費額は年度ごとに総会において決定する。
第十二条	本会の会計年度は、毎年四月一日より始まり翌年三月三十一日に終わる。
第十三条	本会の予算、決算は、総会の承認を得なければならない。
第十四条	本会には左記の帳簿を備える。 (1) 会則 (2) 会員名簿 (3) 会計簿
第十五条	会則の変更は、総会の承認を得なければならない。

付 則

この会則は、昭和五十四年四月一日から施行する。

(昭和五十五年三月二十二日改正)

長崎大学医学部漕艇部OB会役員名簿 (S 55年度)

氏名	住 所	〒	電 話 番 号	
會長 青木 義 勇	長崎市西山町1-50	850	(21)1874	細菌学名誉教授
顧問 宮城 重 信	" 築町3-1	850	(23)2494	開 業 医
" 辻 泰 邦	" 西山町1-370	850	(22)6760	医学部長
" 高 久 功	" 本尾町4-15	852	(44)4087	漕艇部長
" 尾 崎 正 若	西彼杵郡長与町高田郷字木場151-25 自由ヶ丘団地16号	859-06	(56)5101	学生補導教官
" 山 口 光 次	長崎市昭和町882	852	(44)5272	県漕艇協会理事長
" 吉 田 恒 雄	" 矢の平町2-19	850	(25)4979	県漕艇協会
世話人 木 谷 郁 博	" 大浦町8-16	850	(22)2964	開 業 医
" 丹 羽 正 美	西彼杵郡長与町高田郷1613-4	859-06	09588 (3)5871	長大第2薬理
会 計 川 口 昭 男	長崎市中園町15-15	852	(47)5529	長大第1外科

長崎大学医学部漕艇部OB会賛助会員名簿

(アルファベット順)

氏名	住 所	〒	電 話 番 号	勤 務 先	卒 業 年 次
青木 義勇	長崎市西山町1-350	850	(21)1874	長大細菌学名誉教授	S6
阿部 義治	" 光町18-14	852	(61)5774	開 業	S15
井上 漕治	" 岩尾町511	852	(56)2711	"	S19
岡本 英雄	島原市湊道町7024	855	09576 (2)2452	"	S7
片伯 部貢	長崎市本原3	852	(44)3043	"	S17
片峰 大助	" 船大工町2-15	850	(22)0689	長大熱研寄生虫学教授	S14
佐藤 安雄	" 本石灰町5	850	(22)0321	眼 科	日 大
鈴木 悦堂	" 緑ヶ丘1341	852	(46)2052	開 業	S19
城谷 勝明	" 瓢訪町6-23	850	(22)6831	"	S20
高木 聡一郎	" 今博多町37	850	(22)2812	"	S20
高久 功	" 本尾町4-15	852	(44)4087	長大眼科学教授	東北大

田川 段一郎	長崎市白鳥町 7-20	852	(44)0966	開業	S7
田中 敏	" 住吉町 3-11	852	(44)1770	"	S16
辻 泰邦	" 西山町 1-370	850	(22)6760	長大第1外科教授	S16
宮城 重信	" 築町 3-1	850	(23)2494	開業	T14
村上 文也	" 平野町 1-25	852	(47)5132	"	S20
村田 晨六	" 平野町 22-21	852	(44)2460	"	S14
山口 邦夫	" 葉山町 286-30	852	(56)8664	"	S14

氏名	卒業年次	教室	1. 勤務先・勤務先住所 2. 現住所 3. 帰省先	千	電話番号
石橋 盟士	S 3 0		1. 石橋整形外科病院開業 長崎市中園町 2 2 - 1 7 2.	852	0958(45)6181
大須賀 浩	S 3 0		1. 大須賀医院開業 長崎市弁天町 1 7 2.	852	0958(61)3576
木谷 郁博	S 3 0		1. 木谷医院開業 長崎市大浦町 8 - 1 6 2.	850	0958(22)2964
清水 武	S 3 0		1. 榛原総合病院 静岡県榛原郡榛原町細江 3 7 2 1 - 1 2.	421-01	05482(2)2131
星野 行弘	S 3 0		1. 星野医院開業 長崎市浪之平町 3 7 2.	850	0958(22)8702
長西 靖	S 4 6	長大耳鼻科	1. 広島鉄道病院 広島市東日島 1 3 - 2 7 2.	730	0822(61)2251 0822(28)9568

氏名	卒業年次	教室	1. 勤務先・勤務先住所	2. 現住所	3. 帰省先	〒	電話番号
冬野 誠三	S47	九大 2内	1. 九州大学医学部第2内科 福岡市東区馬出3-1-1 2. 福岡市西区室見1-2-9			812 814	092(641)1151 092(821)3178
松本 恵一良	S48		1. 明生病院内科 2. 大阪府堺市浜寺諏訪森町西1-28-2 「ロイヤル諏訪森」305号			592	06(353)3121 0922(64)8828
峰 雅宣	S48	長大 1内	1. 長大附属病院 長崎市坂本町7 2. 長崎市柳谷町4-13			852 852	0958(47)2111 0958(44)7031
朝戸 須江夫	S49	東京女子 医大消化器 センター	1. 東京女子医大消化器センター 新宿区谷河田町 2. 千葉県八千代市台西8-12-1-11			160 276	03(353)8111 0474(83)9020
内田 隆寿	S49	長大 2外	1. 奈留病院 西松浦郡奈留町 2. 長崎市坂本町160			853-22 852	09596(4)2014 0958(46)0155
瀬戸 信二	S49	長大 3内	1. 長大附属病院 長崎市坂本町7 2. 長崎市宝町6-18 別館ビル401			852 852	0958(47)2111
早田 篤	S49	長大 小児科	1. 長大附属病院 長崎市坂本町7 2. 長崎市油木町9-6			852 852	(47)2111 (47)6281
田川 泰	S49	長大 1外	1. 長大附属病院 長崎市坂本町7 2. 長大附属病院 長崎市坂本町7			852 852	(47)2111 (47)6281

氏名	卒業年次	教室	勤務先・勤務先住所	現住所	帰省先	〒	電話番号
富海五郎	S49	愛媛大 精神科	1. 松山精神病院 2. 松山市東野町1丁目79-3 3. 下関市山ノ田中央町			790 750	0899 (22) 3211 0899 (22) 7329
中野文耕	S49	長大 2外	1. 長崎県南松浦郡玉之浦町玉之浦521			853-04	
丹羽正美	S49	長大 2薬理	1. 長崎大学第2薬理学教室 長崎市坂本町7 2. 長崎県西彼杵郡長与町高田郷1613-4			852 859-06	0958 (47) 2111 09588 (3) 5871
馬渡一雄	S49	長大 2病理	1. 長崎大学第2病理学教室 長崎市坂本町7 2. 長崎市大手町407-24			852 852	0958 (47) 2111 0958 (48) 1194
光藤一枝	S49		1. 福原病院 福山市川口町780-2 2.			720	0849 (51) 1007 0849 (54) 2639
石川治	S51		1. 聖マリア病院 姫路市仁豊野917 2.			670	
川口昭男	S51	長大 1外	1. 長崎大学第2薬理学教室 長崎市坂本町7 2. 長崎市中園町15-15			852 852	0958 (47) 2111 0958 (47) 5529
神田源太	S51	長大 皮膚科	1. 長大附属病院 長崎市坂本町7 2. 長崎市片淵町1丁目35			852 850	0958 (47) 2111 0958 (22) 7051

氏名	卒業年次	教室	勤務先・勤務先住所	現住所	帰省先	干	電話番号
田中 精一	S 5 1	東京女子 医大消化器 センター	1. 東京女子医大消化器センター 新宿区谷河田町 2. 東京都			160	03 (353) 8111
堤 健二	S 5 1	長 大 脳外科	1. 長大附属病院 長崎市坂本町7 2. 長崎市岩川町10-15 光和ハイッ			852	(47) 2111
出口 正巳	S 5 3	長 大 形成	1. 長大附属病院 長崎市本原町24-16 2. 北九州市門司区中20-11-7			852 800	093 (381) 4624
土 居 浩	S 5 3	長 大 小児科	1. 長大附属病院 2. 諫早市永昌町244-1ロイヤルハイッ 正栄302号 3. 愛媛県宇和島市本町追手1-2-8			854 798	09572 (5) 1014 089964 (2) 1346
井 上 健一郎	S 5 4		1. 東京都立墨東病院 2. " 江東区毛利2-3-5 吉村ビル403 3. 長崎市岩屋町511			135 852	0958 (56) 2711
江 口 圭 介	S 5 4	長 大 3内	1. 長大附属病院 2. 長崎市宝町6-18 別館ビル302 3. 佐世保市常盤町5-8			850 857	(47) 2111 (46) 1043 0956 (22) 4708
小 村 三代治	S 5 4	神戸大 小児科	1. 兵庫県豊岡市 豊岡病院 2. " " 昭和町6-20 医師住宅302号 3. 鹿児島県會於郡財部町南保11211-3			668 899-41	09867 (2) 2355
成 松 元 治	S 5 4	長 大 1外	1. 長大附属病院 2. 長崎市扇町13-11				

氏名	卒業年次	教室	勤務先・勤務先住所	2. 現住所	3. 帰省先	〒	電話番号
水谷 明正	S54	長大 2外	1. 長大附属病院 2. 長崎市白鳥町7-20 田川方 3. 鳥取県八頭郡八東町徳丸1098			680-06	(47) 2111 (44) 0966 08588 (4) 2252
小倉 猛	S55		1. 青森県津軽郡今別町大字某月44 2. 同上 3. 同上			030-16	01743 (6) 2355
谷川 宗生	S55		1. 長崎県西彼杵郡長与町高田郷2273-4 2. 同上 3. 同上			859-06	(57) 0443
難波 裕幸	S55		1. 神奈川県箱根町大平台395 2. 同上 3. 同上			250-04	0460 (2) 2562
前原 洋二	S55		1. 鹿児島県薩摩郡薩摩町永野2554-1 2. 同上 3. 同上			895-23	09965 (8) 0633
村山 晋	S55		1. 三重県伊勢市勢田町917-63 2. 同上 3. 同上			516	0596 (25) 3722

長崎大学医学部漕艇部現役部員名簿

学年	氏名	出身高校	1. 現住所	2. 帰省先		電話番号
学4	倉富彰秀	修猷館	1. 長崎市平和町12-4 2. 佐賀県神埼郡神埼町大字の1495-1	山里ビル601 1495-1	852 842-01	(47) 6647 09525 (2) 3800
"	山近史朗	修猷館	1. 長崎市滑石3-51-9 2. 同上		852	(57) 4360
学3	岡田代吉	大村	1. 長崎市坂本町576 2. 長崎県東彼杵郡東彼杵町千綿宿1067		850 859-39	(49) 0321 09574 (7) 0020
"	末永俊郎	門司	1. 長崎市岩川町10-13 2. 福岡県北九州市門司区鳴竹1-14-16	可児方	852 801	(48) 1710 093 (321) 2453
"	中崎隆行	豊津	1. 長崎市江平町260-4 2. 福岡県築上郡椎田町椎田	佐藤方	852 829-03	(44) 7310 09305 (6) 0325
"	永見耕一	山口	1. 長崎市平和町28-7 2. 山口県吉敷郡小郡町山手下	堂園方	852 754	(45) 4066 08397 (2) 2462
"	永山雄二	佐世保南	1. 長崎市坂本町13-52 2. 佐世保市須田尾町22-23		852 857	0956 (31) 4093
"	松尾圭一	大村	1. 長崎市浜平町313 2. 大村市本町2-458	佐藤方	850 856	(24) 2941 09575 (3) 2028
学2	今里雅之	大村	1. 長崎市平和町28-7 2. 大村市杭出津2-679-4	堂園方	852 856	(45) 4066 09575 (3) 1253

学年	氏名	出身高校	1. 現住所	2. 帰省先	〒	電話番号
学 2	小林 誠博	小 倉	1. 長崎市高尾町 1 5-4 2. 福岡県北九州市小倉北区日明 1-1 3-8	永田方	852 803	(44) 2041 093 (571) 5909
”	平野 友久	長崎南	1. 長崎市西坂町 3-1 4 2. 同上		850	(22) 6333
学 1	日高 真	鶴 丸	1. 長崎市本尾町 3 3 8 2. 鹿児島県大島郡知名町知名 1 6 6	末吉方	852 891-01	(44) 6568 099793 3901
”	糸柳 則昭	佐世保南	1. 長崎市石神町 4 3 2-2 2 2. 佐世保市小佐世保町 1 2-2 2	永田方	852 857	(49) 0121 0956 (23) 8468
”	中里 貴浩	青雲学園	1. 長崎市花丘町 1 9-9 2. 福江市福江町 2 7 4-5	太田方	852 853	(44) 5713 09597 (2) 3223
”	松岡 直樹	長崎西	1. 長崎県西彼杵郡長与町青葉台 2 3-1 2. 同上		859-06	09588 (3) 2877
”	矢次 登	長崎東	1. 長崎市本尾町 7-3 2. 長崎県北高来郡高来町湯江西溝口名 2 4 1		852 859-01	(44) 7705 095732 3205
教 2	中山 大介	佐世保南	1. 長崎市葉山町 7 0-2 6 2. 佐世保市三川内本町 2 9 0	立石寮	852 859-31	(56) 0659 0956 (30) 7033
”	山田 稔	長崎西	1. 長崎市大島町 9-3 6 2. 同上	松本方	852	(61) 1752

編集後記

漕魂第6号をお届け致します。漕魂のねらいとしては、今年度のレースや行事の公式の記録を残し、諸先生方へ活動報告する事、そして諸先生の御意見、思い出、近況報告などを載せる事などを意図しました。決して満足できる内容ではありませんでしたが、ある程度目的は達せられたかと思えます。

※ ※ ※ ※ ※

四月には子々川で九州山口医科学生体育大会を主管し、成功のうちに終えることができました。九山のオープン初優勝以来、県漕での優勝、準優勝、宮城杯での優勝と3位、熊大対抗戦での3種目とも勝利するなど、努力が報われた一年ではなかったかと思えます。しかし、九州朝日レガッタや西医体では、かなりのもろさが見られ、一層の精進が必要かと思われまます。

※ ※ ※ ※ ※

諸先生方の御援助もあり、全日本学生選手権に初参加しました。初参加の為、トラブルも起こりましたが、ボートレースとしては最高の全日本学生選手権に出場したのは非常に意義深い事と思えます。

※ ※ ※ ※ ※

御寄稿された先生並びに御援助していただいた諸先生方、誠にありがとうございます。今年は特に、大村高校監督の酒井久義先生にも御寄稿して頂きました。誠にお忙しいとは思いますが、今回御投稿なされていない諸先生方も、よりよい部誌を作る為にも、是非とも来年は一筆お願ひしたいと思います。我々の側の不備も多々あると思えますので、気付いた点など遠慮なく申し出て頂ければあり

本誌刊行にあたり御支援して頂いた会社は次のとおりです。

- (合) 東七太郎商店
- 伊東薬品株式会社
- 大塚製薬株式会社
- 科研精器株式会社
- 三栄測器株式会社
- 三共株式会社
- 武田薬品工業株式会社
- 田辺製薬株式会社
- 中外製薬株式会社
- (株) 重陽堂
- 藤村薬品株式会社
- (株) 九薬
- (株) 宮崎温仙堂商店
- やきとりいづみ
- 北陸製薬長崎販売株式会社

心からお礼申し上げます。

編集責任者 日 高 真

北陸製薬長崎販売株式会社

代表取締役

松 友 雅 夫

事務所 長崎市竹の久保町1の1
電話 (0958) 61-0181~3番

健康に奉仕する

藤村薬品株式会社

営業所 長崎・佐世保・五島・武雄
浦上・大波止・大村

地域社会の健康と福祉の向上を願って
てささやかなお手伝いをいたします。

医薬品・医療品
農薬・食品の総合商社
各種臨床検査

(株)宮崎温仙堂商店

取締役社長 宮崎 六夫

(〒854)
本社 長崎県諫早市東小路町179
電話 09572 (2) 3350(代表)

— 事業所 —

長崎. 浦上. 島原. 佐世保. 大村
五島. 天草. 佐賀. 武雄. 熊本

医科学 } 機器・販売・設計・製作
理工学 }

科研精器株式会社

長崎市天神町 1-36
(0958) 21-3 1 0 5

—— メーカー代理業務 ——

株式会社 島津製作所 メディカル
営業部

松下通信工業(株)電子計測事業部

東洋化学産業株式会社

柴田化学器械工業株式会社

株式会社 東海医理科

楠本化成工業(株)工タック事業部

ガスクロ工業株式会社

他、有名メーカー



タケダ



Keep on Going

今日の汗、最高!

名高達郎

アリナミンA25の主成分フルスルチアミンは、

- 腸管からの吸収がよい●神経や筋肉にゆきわたる
- 体内で役立つ型のビタミンB₁(コ・カルボキシラーゼ)になりやすい、などのすぐれた性質をもつビタミンB₁誘導体です。

効能＝肉体疲労時・病中病後・妊娠授乳期のビタミンB₁補給、
神経痛・腰痛・筋肉痛・肩こりの緩和、脚気。

☆説明書をよく読んで正しくお使いください。

☆くわしくは医師、薬剤師、薬局、薬店にご相談ください。

ビタミン
肉体疲労時のVB₁補給に

アリナミン[®]A

武田薬品工業株式会社 〒541 大阪市東区道修町2-27

常に健康への願いをこめて

医薬品卸問屋

伊東薬品株式会社

本 社 長崎市桶屋町45番地 1

〒850 電話 代表(0958)27-2766

営業所 長崎・佐世保・諫 早・長崎北

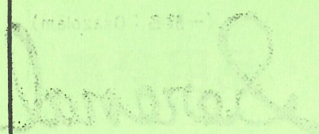
医用電子機器販売

営業品目

- 脳波計
- 心電計
- 筋電計
- ポリグラフ
- 多用途テレメータ
- I.C.U.C.C.Uモンタ
- テレモニタ

三栄長崎販売株式会社

代表取締役 河原 秀 人



長崎市岩川町13番11号
電話 (0958) 45-5795 代表

やきとり・から揚げ・他一品料理の店

やきとり
割烹

いづみ

学生割引実施中**30%引**
(但し午前0時まで)

長崎市浜口町8～11



三共のマイナーランキライザー

セレナル[®]

■健保適用品

(一般名: Oxazolam)

Serenal

錠(5mg、10mg、20mg)・カプセル(10mg、20mg)・散(1%、10%)

適応症

- ①神経症、小児神経症、心臓神経症、胃腸神経症
自律神経失調症、心身症、高血圧症、動脈硬化症、更年期障害、頭部外傷後遺症、眼精疲労等に伴う不安、緊張、焦燥、抑うつ、易疲労性などの情動障害、自律神経症状及び睡眠障害。
- ②麻酔前投薬

〈要指示医薬品〉 副作用、使用上の注意は説明書をご覧ください。



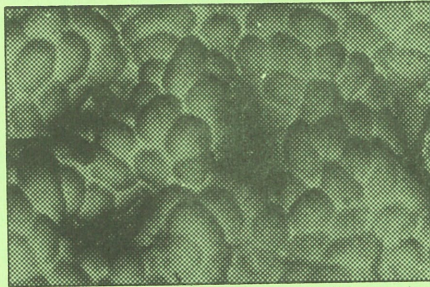
三共株式会社

基質蛋白保護作用・抗ペプシン作用

消化性潰瘍治療剤
アルサルミン 顆粒錠

アルサルミンは胃液ペプシンの蛋白分解活性を直接抑えるとともに潰瘍底部や白苔および粘膜エロジオン部分の基質蛋白とも化学的に結合して潰瘍面や炎症部を保護し、潰瘍やピランの治癒をすみやかに促進します。

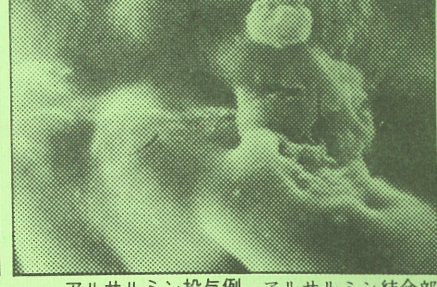
〈基質蛋白保護作用—走査電子顕微鏡による追跡〉



対照例 十二指腸の正常粘膜像強拡大(ラット)

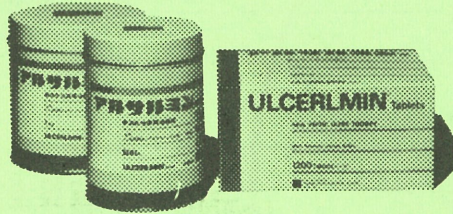


塩酸灌流による表層エロジオン部



アルサルミン投与例 アルサルミン結合部

薬価基準収載



〔適応症〕 胃潰瘍・十二指腸潰瘍

〔包装〕 顆粒：500g、1kg、5kg、1g×1200包、1g×3600包
錠：1200錠

■使用上の注意は添付文書をご覧ください。



中外製薬

東京都千代田区岩本町1-10-6
〒101 TEL 03(862)8251

CUL 0110

凸版印刷・平版印刷・カーボン印刷

〔ポスター・チラシ・事務用書類・書籍・書状〕

事務用品・スチール製品・島津理化学教材

＝ 名刺からカラー印刷まで ＝

(株) 大村活版

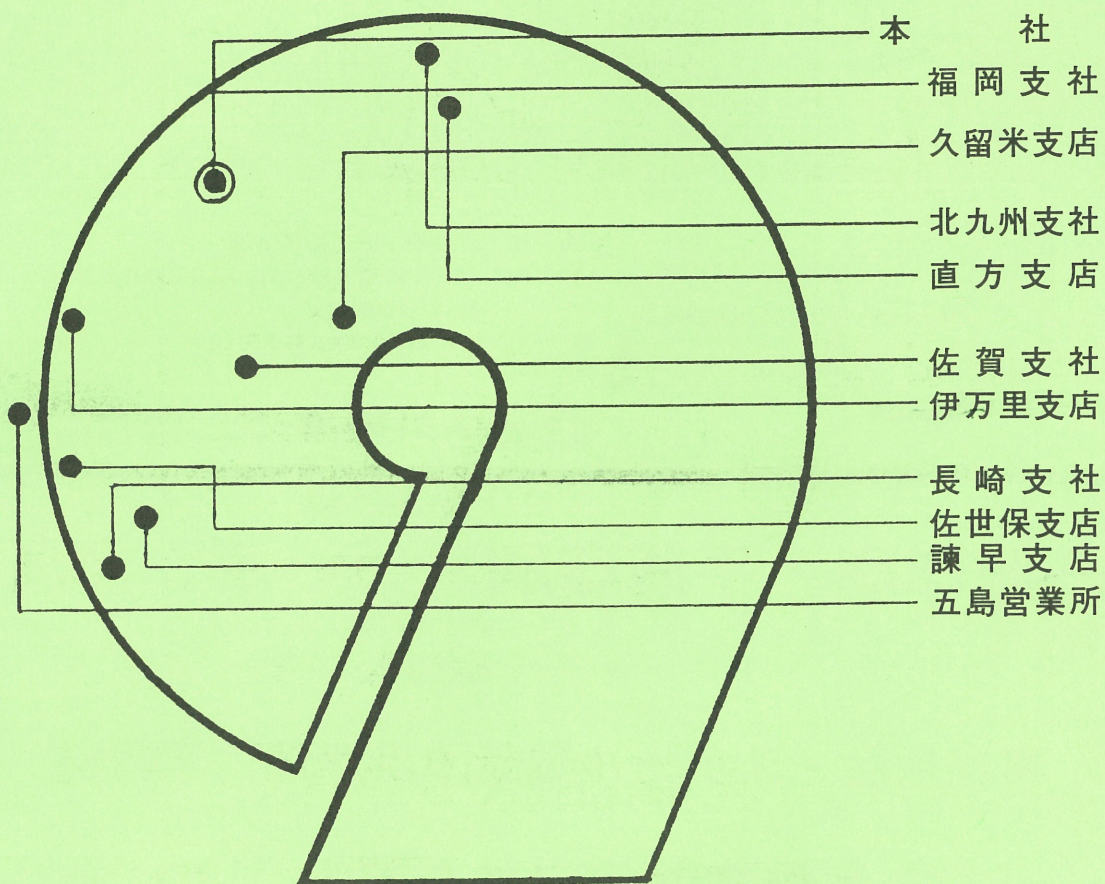
大村市本町二丁目458 〒 856

電話 大村(09575) ③ 2028・2029番

かけがえのない生命だから…

(株) 丸薬は、優良医薬品・医療機器のトータル
サプライできょうも、地域医療に奉仕しています。

★(株) 丸薬 サービスエリア



薬品総合卸



株式会社

丸

薬

本 社 〒812 福岡市博多区山王2-3-5
TEL (092) 471-2200(大代表)

長崎支社 〒850 長崎市弥生町8-18
TEL (0958) 23-2121(代表)

心と緑の調和をめざす



医薬品総合商社

株式
会社

重陽堂

長崎市恵美須町3-4 ☎21-3939